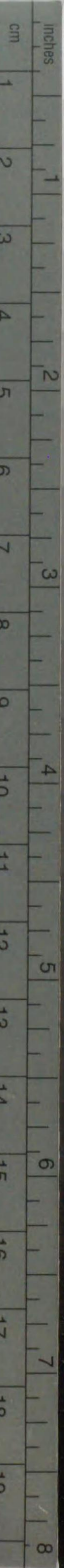


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



655-62
1200501571191

9.9.7

200

2

655
62

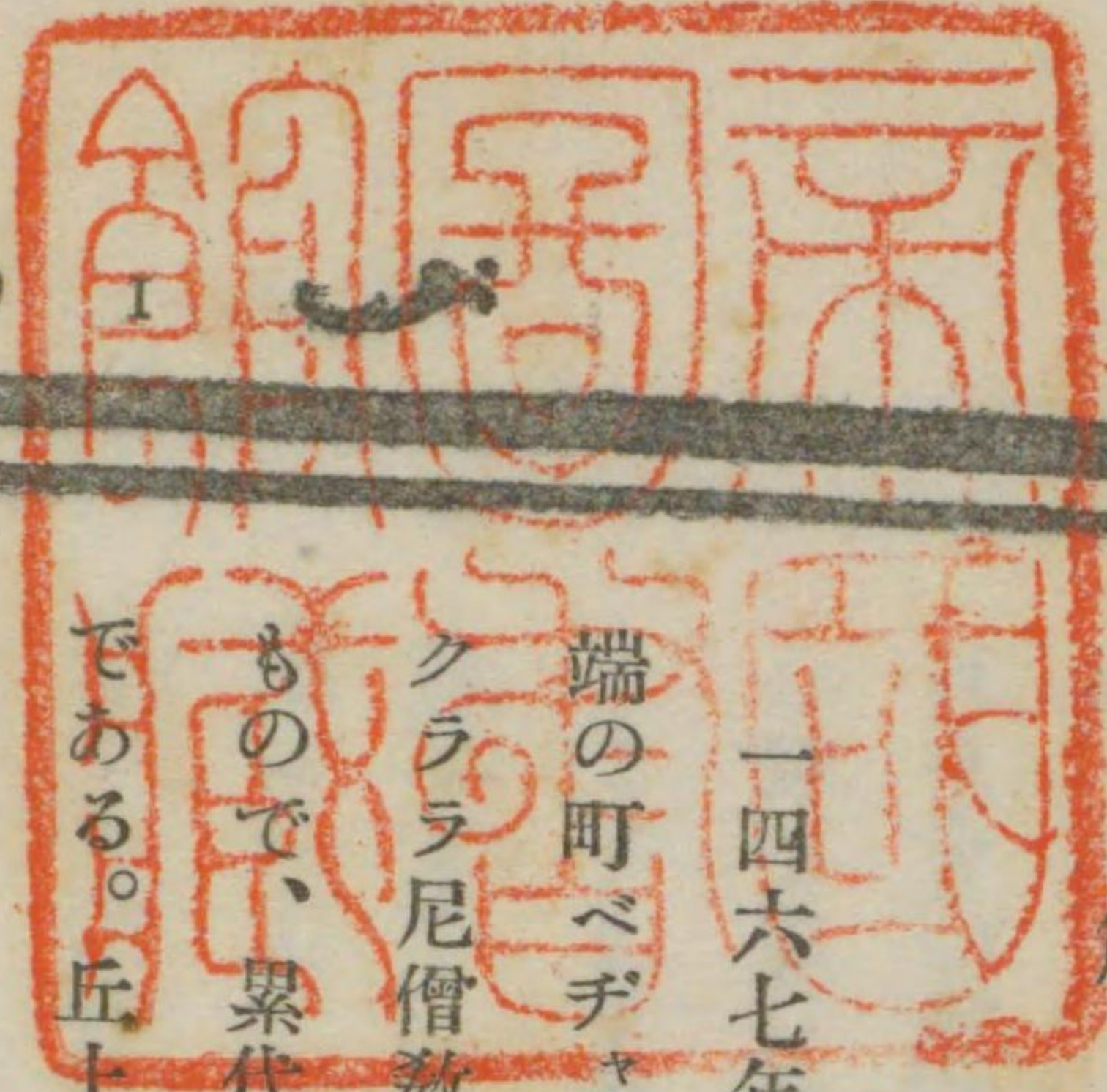
10

K

542

257

$\frac{1}{67}$

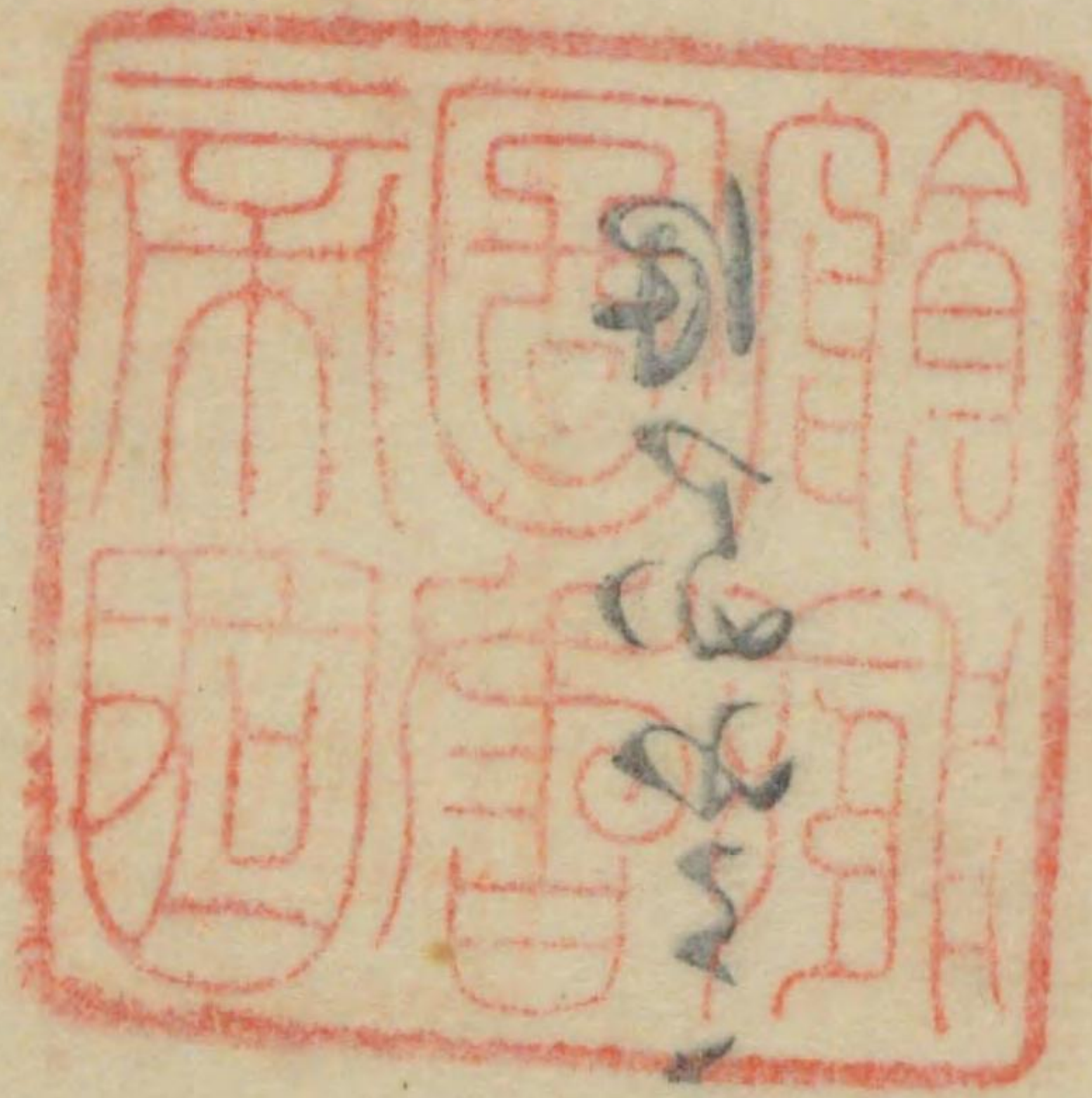


解説

— 尼僧マリアナの生涯とその遺した五通の艶書とに就て —

一四六七年 — ポルトガルの中央平原地方であるアレムテジョー縣の最南端の町ベヂャーにコンセプシオン修道院が建立された。聖フランシス派の聖クララ尼僧教團に属するものである。幸福王エマニエールによつて、出来たもので、累代の王が喜捨をつづけた。ポルトガル修道院中で最も重要なものである。丘上にあるこの小都邑の古代の城壁は巍然と聳えて四周のガウデアナ流域の豊饒平和な田園から見えたが、一際高い尖塔を持った修道院は、その城壁に近く市の極南に在つて、遠くメルトラの町を見はるかすのである。

一六三六年 — ニコラス・プットン・シャミリイ・シランジュールが生れた。後には單にシャミリイ侯爵でとほる人物である。彼の家柄はよかつたが、父は



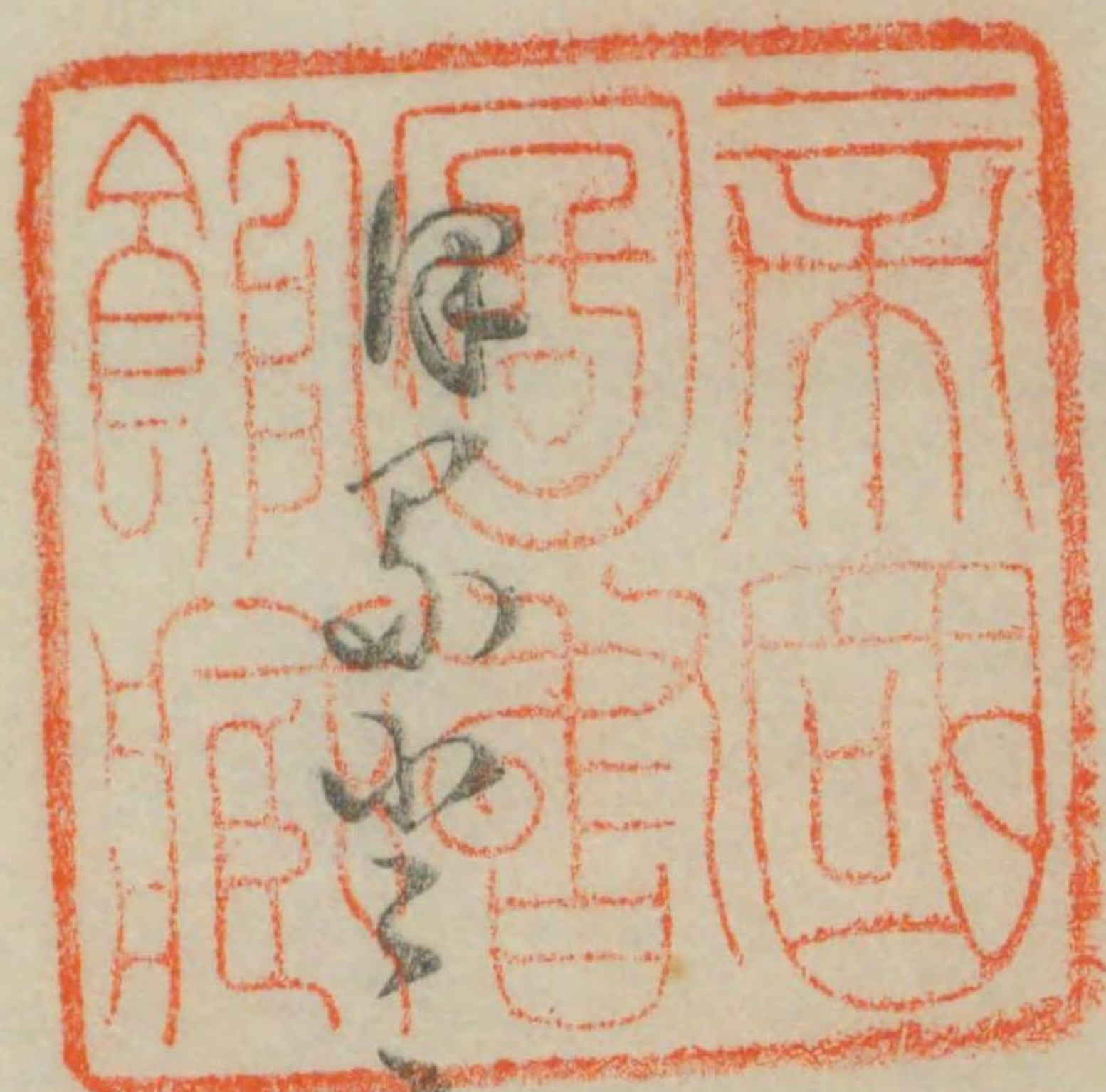
竹林書局出琳

別味八平早春

のた

右板春夫





の
佐
友

佐友春夫譯者



昭和八年早春

竹村書房出版

ルイ十四世の幼年時にその政府の反対黨であるコンデイ王子に加擔し、爲めに地位を危くし、財産は失つた。ニコラス・プットンはその第十一子である。

一六四〇年——マリアンナ・アルコフオラードがベヂャーの町に生れた。母は土地の商家の出であり、父はフランシス・アルコフオラードと言ひ、由緒ある家柄でこの地方に大きな莊園を持つてゐるばかりか「クライスト・オーダアの騎士」としてポルトガル王家ブラガンザの忠義な家來である。マリアンナはこの父の六人、一説には七人の兄弟の第二子、或は第三子であつた。即ち彼女には一人或は二人の兄があつた。ともかくも、バルタザールと呼ぶ長兄があつた。

この同じ年、六十年來スペインに併合されてゐたポルトガルが獨立のための戦を起した。マリアンナの父兄は獨立運動の有力な志士であつたが、開戦とともに無論勇敢な戦士となつた。スペインとポルトガルとのこの戦争に於て、フランスはポルトガルの同盟軍であつた。フランスの王女はブラガンザ

家に嫁してポルトガルの女王となつてゐた。さうしてポルトガルの首府リスボンの宮廷には多數の佛人が仕へてゐた。

一六五二年——マリアンナは十二歳である。彼女は多分この幼少で、生れた町にあるコンセプション修道院に入ることになつたらしい。此女兒には殆ど同年輩の妹カザリンがゐて彼女等は同時に修道院へいれられ、姉妹二人して一人前の尼僧の任務に従ふ事となつた。彼女等はそれほど幼少であつた。國事に奔走してゐる彼女等の家庭では子女の教育が思はしく出来なかつた上に、戦禍はベヂャーの地方にまで及び、幼兒を保護する上に尼僧院が適當な場所であつた。當時この國の上流社會の習慣に従つていづれはそこに入れる娘たちを、こんな事情でこの時期を早めたのである。

一六五六年——シャミリイは二十歳になり、陸軍の軍籍に身を置いてフランスのポルトガル應援戦たるフランダス遠征に従つた。その後長い軍人としての生涯のこの第一歩で彼はションベルヒ將軍を知つた。

同年、マリアンナは十六歳となる。憲法の制定に従つて信仰告白をしてい
い年齢である。かうして彼女は聖クララ尼僧教團の尼僧の一人となつた。

一六五八年——シャミリイは伯爵を授けられ、マザレン騎兵隊の大尉とし
て服務してゐた。フランダース遠征はこの年に終つた。

一六五九年——フランスの首相マザレンはポルトガル問題を放棄してスベ
インとの平和條約を締結した。このピレニイ條約によつてポルトガルは外見
上は同盟國を失つた。しかしマザレンの採つたこの方針はほんの常套的な詐
謀に過ぎなかつた。表面の平和を締結する間も措かず、仕事を失つたフラン
ス軍人の一團をポルトガルの軍務に従事させようと早くも活動し始めてゐ
た。これらの軍人たちのうちの最も有力な者がションベルヒ將軍であつた。

一六六〇年——ションベルヒ將軍は司令長官としてポルトガル軍を更に編
成する目的でリスボンに渡つた。

一六六三年——この年の暮あるひはその翌年の初め、シャミリイはションベ

ルヒ將軍の武威を慕うてポルトガルに渡つた。さうしてフランスの軍人ブ
リック・モルトの統率してゐる聯隊に屬する大尉であつた。彼は一個中隊を支
配してゐたらしい。

この頃(?)マリアンナは妹カザリンを病氣で失ひ、引つづいて母も亦死ん
だ。その當時三歳になつたばかりの最も年下の妹ベレグリーナを、マリアン
ナは尼僧院へ引取り母代りとなつて養育することを許された。一體この時代
の尼僧の生活は想像以上に自由なもので、尼僧院の門は殆ど開放されてあつ
た。場合によつては宮廷に出て女官たちの催す餘興にさへ加はつたものであ
る。しかし、さすがに尼僧が幼兒を養育することは例外として許可されたの
である。同じやうな前例で修道院は曾て不祥な經驗を嘗めた事があつたが、
マリアンナの場合はその父兄が國事に盡してゐるし、孤兒みなしごとなつた三歳の幼
女は長姉マリアンナが育てる外に方法がなかつたのに因るであらう。しか
し、かういふ事の結果がマリアンナをして女性たる自覺を強め世情を湧かし

めたであらう事は注目しなければならない。

一六六四年——六月にはバレンサ・ド・アルキャンタラの包圍があり又キヤステロー・ド・ロリゴオの戦があつた。シャミリイはこれらに参加した。

マリアンナの故郷であり、コンセブシン尼僧院の所在地であるベチャーは今や戦亂の中心地帯となり果てた。

一六六五年——六月、モントカルロの戦。これも亦シャミリイの参加したものである。シャミリイはこの年にポルトガル軍の大佐に昇進した。

一六六六年——この年の始め、或は前年の暮、シヨンベルヒ將軍の部下でポルトガル政府の雇傭者たる司令官ノエル・ブートンの一聯隊はベチャーに駐屯した。シャミリイはこの龍騎兵隊の一箇大隊を指揮してゐた。名義はポルトガルの軍隊であり、事實はフランスの軍隊であるこの一軍は、この地での長期の駐在の間に、ベチャーとその西南方約五十キロメートルの距離にあるメルトラ市とを交通する街道で、屢々機動演習を行つた。(二十數年間に渉る

この緩慢な戦争で實戦は多く夏期に行はれ、その他の時期に於ては、軍隊は戦地にあるとは云へ閑散の状態であり、その折折に演習が行はれたものと思はれる)。多分、かういふ演習の一日で、秋季であらうと推測する。メルトラ街道に近いコンセブシン尼僧院の露臺の上から、多くの宗門上の姉妹たちとともにマリアンナは馬上のシャミリイを見たのである。彼女は當年二十五歳になつてゐた。シャミリイは三十歳であつた。彼は既に勇名を謳はれて十分に人々の間に知られてゐた。軍隊の先頭に、馬上の姿豊に肥大な體軀の武装美しい軍人を尼僧が熱心な眸で見たのを、壯年の大佐も亦見逃さなかつた。この二人を橋渡しした者はマリアンナその人の兄のバルタザール・バス・アルコフォラードであつた。彼はポルトガルの軍人としてシャミリイと同じ聯隊にゐた。さうして彼がシャミリイを修道院内の妹の居室に案内したのである。マリアンナは當時修道院の宿舍のなかに一居室を持つてゐたのである。この宿舍は普通の尼僧たちの共同の家であつて、そのなかの一室はそれぞれ

に獨立して一人の居室であつた。この修道院には外にもう一種の僧房があり、それは修道院の建築物の間に散在した獨立の住宅であつたが、それは共同宿舍の狹隘のために特に憲法で許されて篤志家の喜捨で建てられたものであり、マリアンナの父もその一棟を建てたがそこは上位の尼僧のみ居住を許されてゐた。普通の尼僧にしか過ぎないマリアンナは共同宿舍にゐたのであつた。宗門上の姉妹ドナ・ブライツがマリアンナの戀愛の便宜を計つた事はマリアンナの手紙がところどころに述べてゐる。

マリアンナとシャミリイとの交情が結ばれたのはこの年の暮であつたらうと推測する理由がある。それは翌年の年末に彼女が書いたと推定すべき手紙のなかにその證據がある。またその交情がどんなものであつたかといふことも、次の同じ文句がそれを語つてゐる。「何のお隠し立てもなくあなたさまのものにわたくしがなつてからもう一年でございます。二三日経ちますれば。」
一六六七年——六月、ベヂャーの官憲は、フランスの騎兵隊が市民に加へ

た壓迫に關して、新帝ドン・ベドロに哀訴して勅命を得て居る。これより以前にも同様の哀訴があつて、シヨンベルヒ將軍は既にベヂャー及びその地方から、軍隊を撤回するやうに命じられてゐたのに、軍略上の理由によつてこの勅に叛いてゐたのであつた。新帝がどんな理由によつて重ねて命令を發したか、また警察權の完備してゐる筈の重要な都市に於て、同盟國の人々であり且つ自國の傭兵であるものが、市民に向つてどんな壓迫を加へたか審らかでないが、尼僧マリアンナと大佐たるシャミリイとの醜聞が半年間のうちに既に世間に流布し、さうしてこの種の問題は外にもありさうな事でもあり、また地方の有力者である尼僧の一門と善良な市民たちとを苦惱させ憤慨させたのではなからうかといふ想像は必ずしも不當ではあるまい。

同じ年、年末に近づいてシャミリイはルイ十四世によつてフランス軍隊の大佐に任命され、同時に歸國を命ぜられた。デイジョン知事をしてゐた彼の從兄弟が、ポルトガル遠征軍から彼を呼び戻す事をルイ十四世に懇望した結果

である。シャミリオの歸國は突然に行はれた。彼は他のフランス軍人の歸國の時の如くポルトガル皇帝の許可を得ることもなく、又首府リスボンに立寄ることもせず慌しくポルトガルを退去した。彼はベヂャーからメルトラに到り、この河岸の町からガッデアアナ河を下つてその河口から乗船したらしい。彼は航海中の船をわざわざとめさせてそれに便乗したのだ。彼の歸著はポルトガルとスペインとの平和が結ばれるよりも一箇月早く行はれ、彼が屬してゐた龍騎兵隊の撤兵とは何の関係もなかつた。又ルイ王がピレネー條約の結果としてスペインから迎へて結婚した王妃マリア・テレサの家督相續權を主張して王妃の實家たるスペインの王家に對抗した民間繼承戦争もこの年に起つたが、このフランダスへの出軍にも彼は關係しなかつた。この新しい軍務に命せられるために彼は歸國を促されたでもない。疑ひもなく、物議の種となつてゐるマリアンナとの事件の結末を曖昧に片付けるための最上の策として彼は不意に歸國したのである。

マリアンナがシャミリオに寄せた手紙、所謂「ほるとがるぬ」の第一信はシャミリオの出發後直ぐに書かれたものであることは戀人の一般心理を考へれば別に論證の必要はあるまい。さうして第二信は直ぐ第一信に續いて書かれた。その上に第二信は第一信よりも反つて早く受信人の手に入つたのであらう。何故かといふのに、シャミリオが乗り込んだ船は難船のために不時にポルトガル最南端のアルガルブの港に嵐を避けたのだ。第一信は豫定の入港地に宛てて出したのに違ひない。第二信は大急ぎで不時の入港地アルガルブへの幸便に託してゐる。第一信に於ては彼女は多少の疑惑の外には専ら別離の悲しみを傳へるのに急であつた。しかし第二信では激しい疑惑と怨言とが縷々として盡きない。

一六六八年——年の始めにマリアンナは修道院の門衛にされた。愛人に捨てられたこの尼僧のために氣の變るやうな職務を與へようといふつもりであらう。彼女が門衛になつた事の記録は修道院に今日でも残つてゐるといふ。

さうして今は不明なこの日付は「ほるとがるぬ」第三信及び第四信の日付を決定する上に甚だ重要なのに、筆者はまだ漠然と年の始めとよりは教へられてゐない。ともあれ第三信は彼女が門衛になる以前に書かれたものであらう。愛人シャミリイに彼女が門衛になつた事を傳へてゐるのは第四信によつてである。

同年二月十三日、ポルトガルとスペインとは間歇的にはあつたが二十八年間繼續した戦争の講和を締結した。ポルトガル獨立は成功したのである。此同じ頃、戦争の結末に先立つて突然歸國し、さればといつて別段に新しい軍務をも帯びなかつたシャミリイは、ルイ十四世と一緒に出身地方であるブルガンディ縣の主都ディジョンに滞在してゐる。この閑散は不意に急遽の歸國を命ぜられた程の用向きある人としては決して受取れないものである。

五月二日、前年のフランスのフランダースの出軍たる民間繼承戦争は、アーヘンに於て平和を締結した。第四信に於て「今朝ほど三時間の間、佛蘭西

の士官は思ひやり深くもあなたさまのお噂をわたくしにして下さいました。平和がフランスに成立つたと伺ひました」とあるのはアーヘンの講和を指してゐるのである。それによつて考へると、第四信はすくなくとも五月初旬以後に書かれたのでなければならぬ。ここでもう一度考へるべきは、この同じ第四信に於て、この年の始めに彼女が與へられた職務の事を「この程わたくしは僧院の門衛にされました」と報じてゐる一事である。即ち年の始の出来事と五月の出来事とを同時に報知してゐる。第一、第二、第三の消息を立てつゞけて書いた彼女は、これを見ると、少くも三ヶ月以上も空しくその返事を待つて後やつと第四信を書いたのである。さうしてその第四信に於て彼女は「この六ヶ月と申すものわたくしは只の一本の御手紙さへ戴けませんでした」と怨訴してゐる。それにしてもシャミリイも當初は簡略でも二つ以上の便りをしてゐたのである。マリ安娜の第二信は言ふ「下さる御手紙はみなつめたくその上にただの紋切型です。紙には半分も書いてはゐらつしやら

ない。早く切上げたくて仕方がない御様子が見え透きます」。六ヶ月とは多分、シャミリーの出發の當時なる前年の十二月からこの第四信を書いた五月までのことであらう。この第四信を見てからやつと返事を一通書く氣になつた。マリアンナの第五信によつて、我我は男から得た手紙がどんなに彼女を憤激させたかを見る。今までの愛慕、疑惑、憂愁、哀願、未練を彼女は決然と擲つて最後の手紙を書いたのであつた。彼等はこの時には互に急速に應答し合つたらしい。といふのはマリアンナの最後の手紙は多分六月に書かれたとされてゐるからである。尼僧のまごころを傾注し盡した戀慕の手紙はこの五通の外もう書かれなかつた。一方、受信人のゐるフランスでは、この同じ年のそれも恐らく尼僧の最後の手紙が到着して間もないころに、もうそれがフランス語に譯されてゐたものらしいのである。さうしてその譯文は原稿のままに人人の間に愛讀せられたらしい。

一六六九年——一月、巴里の有名なる書肆クロード・バルバンから「ほると

がるゑ」が出版せられた。小形四六判で一八二頁の小冊子である。前年から好事家の間に評判になつてゐたものが、終に活字になつたわけであらう。シャミリーは無論この公刊に就て關係があつたらう。尠くとも黙認以上であらう。遠征中の記念品或は一種の戦利品のやうなつもりで、彼はこの公表を拒まなかつたのであらう。それに當時に於ては手紙は即ち文學であつた。他人から貰つたものも、自分が人に與へたものも、さまざま手紙の寫しを配布して友人仲間に披露して賞讃を博するのが、この時代のこの國に於ての風習であつた。従つて眞心を籠めたこの愛戀の手紙の受信人は、多分虛榮心をもつてこれを友人達に披露した結果、それを見た人達は多大の好奇心と一緒にまた恐らく文學的評價の認識をもつてこれを公表するに到つたかと思へる。我々の目には殘酷な不信實な皮肉なこの所爲も、當時としては決してさまでは不自然な事ではなかつたと考へ得る。しかしさすがに筆者の名は全く完全に匿されてあつた。宛名は無論、發信の日付まですべて省略せられ、我我は

これを知るために苦心しなければならない。その順序までが不自然に置き換へられてあつた。此最後の一事はどういふ理由から出たか全く理解出来ない。無意味千萬にも、その自然な緩急を阻止し、加工して、段々に感情の激しいものを後に置くことが讀者への効果を強めると考へたかも知れない。又同じ謬見から多少の潤色強調を加へもしたらうと推測しなければなるまい。

この小冊子の出版は素晴らしく見事に當つた。恐らく巴里の讀書階級は、巷説によつてこの戀文の由來を何の説明をも必要としないほどよく心得てゐたであらうと思ふ。多分人人は騎士と尼僧とのロマンチックな情事の事實に對する興味でこの小冊子を手にしたであらう。しかもこの書物を眞の意味で成功させたものはその一見生硬な譯文にも拘らず、その表現と内容とを成すところの素朴な力強い眞實、感情の自然な新鮮、戀愛心理の露出の魅力に外ならなかつたらう。この時代にあつては、娘達はコルネーユの悲劇のなかから言葉を借りてあり合せの美辭麗句で自分の感情を言ふより外に方法を知ら

なかつた。しかし「ほるとがるぬ」の筆者が些の身づくろひもなく、只心ゆくままに書きなぐつたこれらの粗野な、しかも人を動かす文字は讀者にとつては唯驚異であつたに違ひない。事實、この書の出現以來、世上の婦人たちはこの書の手本によつて、今までの書翰のマンネリズムを破ることが出来たと論ずる人さへある。

この書は年のうちに再版した。そればかりではない、さまざまの續篇だの新篇だのと稱する偽作が引きもきらず刊行せらるるに至つた。又、初版出版の二三月後には和蘭のアムステルダムでまで刊行せられ、これが廣く國外で流布せられた。獨逸のコロンでも刊行せられた。

コロン出版のものには、注意す可き事には、次の如き記入がある。「手紙の宛名の人物は騎士シャミリエであり、翻譯者はギューユラック」。これが「ほるとがるぬ」の受信人及び翻譯者を明示した最初の機會である。國內で知られてゐない事が先づ國外で知れた形であるが、寧ろ國內では記入するまでも

ないほど讀書社會に傳播してゐたと見る事も出来るだらう。翻譯者ギユエ
 ラックといふのはピエール・ジラアドン・ド・ギユエラックであつて「ガゼツ
 ト・ド・フランス」誌の社長であつたが、この爛熟し切つた王朝文化時代の代
 表的才人であつた。當時の大家ポアロウによつて「宮廷が教へ得るところの
 あらゆる技術を生れながらに具へた名人、物言ふ事にも口噤む事にもともに
 練達」と對句に歌はれた人物である。彼の此譯筆は一見頗る拙劣であるが、
 この今古獨歩の手紙はたとひ流暢を犠牲にし苦澁を忍んででも逐語的に譯出
 するより外に、これが精神を、生々しい眞實を、特有の感動の旋律を傳へる
 方法がないことを知つてゐたのは流石に才人の名を辱しめないと言ふべきで
 あらう。さうしてこの決して都雅でない譯筆こそこの意味で名譯なので、そ
 れは今日失はれた原文をしのぶには絶好のものであるらしく、「ポルトガ
 ル人若しくはその國語を知る者にとつては尼僧の五通の手紙がポルトガル原
 文から殆ど逐字的に翻譯されたのを疑ふことが出来ない。逐字的にもう一度

復文されるとすれば、多くの言葉の組立てはその國語の天賦と本質とに全く
 調和してゐるのが發見される」と言はれてゐる。

「ほるとがるぬ」の成功に乗じて續々と出版される偽作や模倣作のなかにや
 がてその「返信」と稱するものが現はれた。これは他の偽作類とは些かそ
 の撰を異にするものであるらしい。即ち、シャミリイの不人情な愛の裏切り
 に對する公衆の義憤に向つて、シャミリイの立場を釋明して非難を融和し、
 その人の品位を支へようといふ實際的な目的で、シャミリイの友人達——想
 像を逞しくするなら恐らくは才人ギユエラックなどが作爲して刊行したもの
 であつたらしい。彼等もあの尼僧の手紙を集めた小冊子がこれほどの反響を
 産まうとは豫期しなかつた事と、又その今更な狼狽振りを證據立てるもの
 ある。

この同じ年にマリアンナの兄バルタザールは父の豊富な遺産を捨てて僧籍
 に入つてしまつた。理由は全く不明であるが、彼がその重大な責任者である

點を思へば、世上に今更喧しくなつた妹の情事と彼のこの行爲とは、折も折だけに何等かの關係がありさうにも思へるのである。

一六七一年——(九六)年のコロソ版にその明示があつたが爲めであるか、この版の「返信」にはシャミリオの名が記入され、さうして又この同じ年にシャミリオは一婦人と結婚した。彼女は聰明な女性で、シャミリオの一生の榮達の爲には甚だ役立つらしいが、サン・シモン公の記述に従ふと「稀代の醜」と呼ばれてゐる。これを見て、「惡意ある微笑を催す」のはひとりエドマンド・ゴスだけではあるまい。しかも、想像外なことには、シャミリオはこの醜惡な妻に對して、模範的な良人であつた。更に想像外にもシャミリオは長大肥満な顔るのお人好しで、戦争には強かつたが、その言ふところを聞きその姿を見ては、これがあの有名な手紙にある程のロマンチックな熱情を吹き込んだ人物とはとても受取れない、といふのもサン・シモン公の傳へるシャミリオの肖像である。その他の諸記録に照しても、要するにシャミリオは外見も智

慧も單純な血めぐりの悪い大男で、寧ろ無邪氣な無思慮のために平氣で冷酷な事が敢て出來た類の人物であつたらしい。要するに彼は單に軍人であり、又時代そのものは戦争に於けると同様戀愛に於てもめちやくちやであつただ。

一六七六年——マリアンナの妹ペレグリーナ・マリアはこの年の宗門的告白で、信仰を得たのは十一歳以前の事、姉マリアンナに育てられたのは三歳の時からであると述べて多大の感謝をマリアンナに捧げてゐるのが記録に残つてゐる。この妹は祐筆の役になり、後には尼僧院長としてその名を記録にとどめてゐる。

一六七七年——最初の英譯が出來た。

一六七八年——サン・シモン公の「回想記」のなかに「ほるとがるぬ」受信人としてシャミリオの名が明記せられた。これがフランスに於て、この事が文字によつて現はれた最初の機會である。

一六八九年——佛譯者ギユイユラックが死んだ。オットマン帝國への使節となり、その旅寓に歿したのである。

一六九〇年——この年以後、フランス版の各版にも受信人シャミリイ及び譯者ギユイユラックの名が記入されるに到つた。即ち公衆に對して事實の一部が發表されたのはギユイユラックの死後ではあるが、シャミリイの生前の事である。しかし、シャミリイはこれに對して曾つて正誤したり抗議したりは一度もしない。さうして、「ほるとがるぬ」の流行は依然として衰へなかつた。この頃には殆ど總てで三十種ばかりの偽作や戯作や又は模倣作が出版せられてゐる。原作は無論の事、これらの偽作でさへも亦それぞれ相當に讀まれたのである。今や「ほるとがるぬ」といふ名は一冊の書物といふよりも、寧ろ文學の一部門のやうな形になつた。又「ほるとがる人」といふ事が一つの代名詞のやうに使はれてゐる例もある。——「ブランカは日頃の疎遠を詫びて大へん真心をこめた手紙をくれました。行毎にあの方は眞底からわたしに話

してゐます。同じ調子であの方に返事をする致しましたら、わたくしもポルトガル人になることでせう」これは書翰文學の名家マダム・ド・セビニエがマダム・ド・グリセニャンに寄せた手紙の一節である。

一七〇三年——シャミリイは元帥に任命された。前後廿五回の戦争に出軍して、武勳を表した結果である。彼は攻撃に於けると同様に防戦に於ても闘將としての力を發揮した。エム・リアッシといふ史家がシャミイに關する種々の逸話を述べてゐるが、それによると彼は勇敢な闘將であると同時に寛宏な人物であつたのが想見出来る。

一七〇九年——マリアナは尼僧院長の候補者になり、しかも十票の差で落選した。この立候補は今も老女である彼女の心から出たものであつたか、或は又後輩の敬愛によつて推舉せられたものであつたか、何れとも判らないが、それを知り得たならば彼女の性格はもつと明瞭になるであらう。ともかくも彼女は遂に尼僧としての名譽は生涯得なかつた。

一七一三年——英國では「ほるとがるぬ」を歌にしたものが出版せられ、版を重ねた。マリアンナの手紙がこの國でも人々に愛讀せられたのを知る。

一七一五年——シャミリイ侯爵が死去した。七十九歳であつたが、精神的にも肉體的にも年より早く老衰して了つてゐて、既に世間には何の用もない人間になつてゐたのである。彼には生涯、子供が無かつた。

一七二三年——マリアンナが死去した。八十三歳である。その手紙のなかで永久に消えない情炎を遺して不朽の青春を保つてゐる彼女が、こんな高齢まで生残つてゐたのである。我我は既にシャミリイの外貌と性格とを知り、また彼の妻の「稀代の醜」を知り、今はまたマリアンナのこんな長生を見た。現實は飽くまでも重ね重ねの悪誑家である。彼女の死亡報告の語るところでは、彼女は病弱な素質であつたと言はれてゐるが、もともと彼女の一族は強健な種族であつたらしい。彼女に養育された妹ペレグリーナは、生涯その姉に對して美しい奉仕を續けて不幸な姉に對する慰安となつた。この妹は姉よ

りも十八九の年下であつたらしい。修道院の記録は次の如くである——

一七二三年七月二十八日王立コンセプション修道院に於て八十七歳の齡をもつて尼僧マリアンナ・アルコフォラード歿す。八十七年の全生涯、神の忠實なる奴婢たり。合唱隊に又懇和會に常に出席し尙且他の義務をも盡して過たず。その行狀たるや眞に範とすべきものなり。三十年間嚴格なる苦行を修し忍従以て一切の苦艱を嘗めつくしていや更に苦艱を求む。何人も彼女に難すべき點を認むる者なし。他に對しては偏に友愛を努む。臨終の期到るや彼女は聖約の全部を乞ひ求め之を身に受得したることに對して神に幾多の感謝を捧ぐ。斯くして彼女は一切宿縁の定むるところを具現して生涯を了へたり。

修道院祐筆、マニア・ソヒャ・バフタ・ドアルメーダこれを記して證明す。

同年同月同日署名す。

——署 名——

修道院の記録は、彼女の過去の重要な一過失に對してはもとより一言も觸

れてゐない。それがマリアンナとまた修道院との名譽を守る上に於て必要であつたからである。マリアンナの行年を八十七歳と記入してあるのは誤りである。

時は経過した。それがもう一般的に讀まれなくなるにつれて、當時の巷説も亦消えてしまひ、「ほるとがるゑ」の書冊は傳はつたが筆者のことはもう誰も知らなくなつて了つた。それはどこにも記録として残され無かつたからである。かうして受信人シャミリイと譯者ギユエラックとは知られながら眞の筆者は終に知らるべくもなかつた。ただ文中に二ヶ所自らさう呼んでゐることによつてその名がマリアンナである事と、また文中の記述に偶メルトラといふ地名が出るのを知るばかりであつた。さうしてマリアンナといふ尼僧とシャミリイ侯爵との情史を、單にそれは有名な人物に得て纏る根もない風評

として疑ひ、同時に「ほるとがるゑ」をも歴史的の産物といふより文學的の所産だと斷じた學者や批評家も少くなかつた。この書物に伏在してゐる淋漓たる感情の眞實性を疑ふ人もあるものと見える。ジャン・ジャック・ルウソオの如きも、これを男子の手によつて書かれた文學だらうとの意をその書翰のなかで洩してゐる。この深い霧につつまれた書物は、しかし、筆者の何人たるかまたその史的文献であるか創作的産物であるかを問はず、文學としての光輝は、その疑問によつて失はれはしなかつた。それ自身の價值のみならず、その深い暗示によつて歐洲の文學に轉機を與へたとさへ言ひ得る。即ち感情及び心理を取扱つた文學の先驅をしたのである。文學の先驅といふことはやがて新しい生活の創造とも見ることが出来るのである。たしかに「ほるとがるゑ」の筆者は文學上の習慣を打破した。それを稱して貴族文明に對する反抗とし勃興期にあつた庶民文明の曙光と見ることも亦差支へあるまい。但、茲に最も面白い一事は、そんな影響を次の時代に與へたこれらの文字の

筆者自身は、これが新文學であるなどとそんな自覺や理論などは夢にも持たなかつたのだ。想像せよ、それは只ほんの戀文だ。彼女は只唯一途に彼女の一つの感動を、深い實感を、人に——それもただ一個の情人に訴へたかつたそれだけであつた。いかなる種類の感動にもせよ、その表現のあるところ必ず文學が産れ、文學のあるところ必ずその時代とその人とその事とは自ら語り盡されてゐる。「ほるとがるゑ」の事實は前述の如く甚だ皮肉であつたが、「ほるとがるゑ」の文學史上の意味も亦なかなか皮肉ではないか。

一八一〇年——フランスの言語學者ボアソナードが、偶然にも一六一九年初版本の一冊の表紙に「マリアンナ・アルコフォラード、アレムテジョー・ベヂャーの修道院の尼僧」と手記されてゐるのを發見した。それは正しくその出版當時の人の書風で書かれた文字であつた。しかしそれだけの簡単な記入は、

ほんのちよつとした手がかり位なものであつた。

一八八四年——ブルガンデイの一郷土史家が、郷土の英雄シャミリオの辯護者としてポルトガルに於けるシャミリオの軍事行動を詳細に調査し、それによつて彼の崇拜する人物と一尼僧との情事の史實では無い事を闡明しようとした。これが恐らく「ほるとがるゑ」の架空的製作を主張した最後のものであらう。然もエドマンド・ゴスはこの辯明的研究が寧ろ反證として役立ちそれが史實であつた事を思はせると斷定した小論文を草したが、この文藝批評家は彼自身告白してゐるとほりにその史實に就ては殆んど知るところが無いらしいのに、さすがに直觀と鑑賞との鋭を示すものはある。彼は「ほるとがるゑ」を評して、この一冊子が「歐洲の感情的文學、それは頗る異色あるものであり、今もなほこの題目を捨てないである歐洲の感情文學に一影響を呈した」ことを道破しましたそれが實生活に於ての手紙の文體を變化させた例を挙げ、更にこの書の特色であり文飾萬能の當時にあつて異色とすべき點を

一に熱情の流露による直接の方法をとつた所にあるとし、そこに尼僧院の生活も地方色も季節の變遷も何等のそのやうな外界の描寫らしいものとしてまるで無い事も亦極めて自然な心理として深い効果あることを認め、その讀者を動かす状態は、戸外の暗の中に見えぬものが哭き叫んでゐるのを窓の内から窺ひ聞いた者が、如何ともしがたない同情を促されるに髣髴たるものだと言つてゐるのは、適切な評語である。

一八八八年——ポルトガル人ルシアノ・カルディオがボアソナードの發見を基礎として、ベヂャーを訪ひ、その採訪の結果、修道院の記録の中からマリアナ・アルコフォラードを發見し得た。記録は彼女の情史を抹殺してゐたけれども、その地方の人人の間には今もまだ口碑に傳はつてゐた。さうして氣の毒な尼僧が無情な戀人を見初めたといふあの露臺は廢址になつて未だ残つてゐるのであつた。カルディオはその史實を確實にすると同時に、フランス語から「ほるとがるぬ」を再びポルトガル語に反翻し、また亂れてゐた手紙の順序なども整理した。

その後デンマーク人、カルル・ラルセンが（この人は不遇な生涯を送つた學者であつたが）、「尼僧マリアナとその戀文」といふ著書のなかで、カルディオの補遺を成し遂げた。

一八九三年史學家エドカー・プレステーヂ氏の新英譯書成る。

一九二二年日本東京に於て芥川龍之介が友人和氣律次郎の注意によつてプレステーヂ氏の英譯本を一古書肆より購求して同年十二月に一讀過した。

一九二九年本稿の筆者は亡友の澄江堂文庫中より供覽した *The Letters of Portuguese Nan* / by Edger Prestage / 1893 / London / によつてこれが邦譯を試み、同年十二月畏友澤田卓爾の助力によつて纔にこれを成し、古の「おらんだ文」「じやがたら文」にならひて「ほるとがる文」と題す。

一九三四年四月

佐藤春夫記す

ほるとがる
ぬぶみ

戀には四つの種類がある。
 (一) 熱情戀愛 あの葡萄牙の尼
 僧の戀。エロイズがアペラア
 ルに對する戀。エゼルの大尉
 セントオの憲兵の戀。

スタンダール著「戀愛論」第一部第一章

最初のぬ

まあ考へてもごらんなさいまし、いとしいお方さま、あなたさまはどんなに向見ずなことをして下さいました事か。ああ、不仕合、あなたさまが裏切られも致しましたし、あなたさまもわたくしを幻の希望のかずかずでお裏切なされも致しました。あれほどたくさんのお歡びを前途に懸けてゐらした情熱が今は怖しい絶望の思ひをおさせ申すのです。こんなことになるのも因もとはと申せばただ離居がさせる業なのでございます。何とまあ、この離居、わたくしの悲歎がよしどんなに言葉巧みであつてもこれを名づけるに足るほどの悲しい名はとでも得與へも致せませぬこの離居こ

そ、あれほどたくさんのお愛情、あふるる喜びをわたくしの身に感じさせも致しわたくしの身にはありとあらゆるものとして役立ちも致し、一言に申せば身が切願の一切でございました御愛情をいつもお見せ下さったあのおん目を、永久にわたくしから奪去つたのでございます。わたくしの目は、悲しくも、命を興へられて居りましたただ一つの光を見失ひ、涙ばかりがのこされて居ります。わたくしにはとても得堪へられないやがてはわたくしを死なせずには措かない別離をあなたさまが思ひ立つてゐらつしやると知つてこのかたと申すものわたくしはわが目に唯絶えず泣くことばかりさせて居ります。でも思へば、外ならぬあなたさまの御ためにするこの歎きにわたくしは故意に取纏つてゐるかのやうな氣もいたします。始めてあなたさまにお目にかかつたその瞬間からわた

くしの命はあなたさまにお捧げ申したのでした。それをあなたさまに犠牲とするのはわたくしにはどうやらうれしいのでございます。日ごとに千度もわたくしは溜息をあなたさまにお送り申し上げます、それがあなたさまをあらゆるところに追ひ求めます。かくも切ない苛立ちの只一つの報ひにと、その溜息は、わたくしの不幸の間違ひつこない警告をもつてかへります。嗟、望みといふものでわたくしをなぐさめもせぬ無慈悲なその不幸が、いつもわたくしにはかう呼びかけるのでございます——もうおやめ、徒らな望みをかけて身を枯らし果てるのはおやめ、不運なマリアンヌ、二度ともうお前が逢はう筈もない戀人をさがすのはおやめ。あの方はお前をすてて海を渡つた。あの方は今はフランスで快樂のただ中にゐらつしやる。あの方はただの一刻だつてお前の悲歎などは

思つてもみなさらない。御自身の知つた事ぢやないそんな痛みなどのためにお前にお禮をおつしやりなどはなさりますまいよと。いいえ、わたくしはそれでも、あなたさまをそんなに悪くお思ひする覺悟にはなれませんものですから、わたくしはあなたさまの事をよほど最眞目に考へて、あなたさまがどうぞ御自分のお言譯いひわけをなすつて下さればいいがと思つて居ります。わたくしはあなたさまがわたくしをお忘れなされたとはどうも考へたくはないのでございます。そんなありません疑惑で身を苦しめないだつてわたくしはもういい加減しあはせてございせんか。それだのに何を好んで、あなたさまがわたくしのために御愛情のお證あかしを下さらうとしてお骨折りになされたそのお心づくしを忘れようとて一杯になる必要がございませう。あなたさまのお誓をうれしいと

存じ上げた折にわたくしの情熱が身に與へたあのうつとりとした氣持で、幾久しくあなたさまをお慕ひ申さぬと致しましたなら、わたくしこそはほんに御恩知らずになることであらうとまで思つて、わたくしはあなたさまにお迷ひ申し上げて居ります。あんなに甘い瞬間の思ひ出がどうしてからも苦くなりますものやら。あの瞬間が今はその本性とは似ても似つかず、なぜわたくしの心を虐げるだけにしか役に立ちませぬものやら。嗟、不便ふびんな心根、あなたさまの最後のお手紙はただならぬ有様にわたくしの心を墜入れましてございます。あまりに強い苦痛を受けましたものですから、わが心はわたくしを振捨ててあなたさまをお捜しに出ようとしたしたものと見えます。はげしい感動に取押へられてわたくしは三時間の餘も正氣を失つてゐたのでございます。註一あなたさま

のおん爲めに長らへさせることが出来ない限りは寧ろ、あなたさまのおん爲めに捨てなければならぬその命に復歸するのを、わたくしはさながらに拒んで居りました。それだのにわたくしといふものが平生の自分に立返りました。わたくしは戀に死ぬと感じて満足にも存じましたし、その上にまたあなたさまにお別れしてゐる辛さで心の引千切られるのをもう無理に見てゐないでも濟むかと思へばうれしうございましたものを。最初の徴候がございましてからは、わたくしは健康をそこねてひどく悩んで居ります。それにいたしましたしてもお目もじまでには、二度と再び丈夫になれるものでせうか。苦しみはあなたさまが下さつたのでございますから、何もかこ言せず、わたくしはそれを忍んで居ります。何と、これが眞心こめてあなたさまをお愛し申した事に對してあ

なたさまの下さるお報ひでございませうか。でも何ともございせん。生きてあらん限りあなたさまを讃へ、ほかの何人をも思ふまいとわたくしは心を固めました。あなたさまとても亦、當然、どなたさまをお愛しなさらぬやうおん申し入れいたします。あなたさまにいたしましたもわたくしのものよりも冷い愛情に御満足はなさりますまい。美しさなら（いつぞやわたくしを大へん美しいとおつしやつて下さいましたけれど）多分外にどこにでもお目にとまりも致しませうが、これほどの御愛慕はあなたさまとてきつとお見出しはなされますまい。ですから外の一切は何でもございませぬ。つまらない事でお手紙をもうお埋め下さいますな。忘れてはいけななどともう二度とお手紙におつしやつては下さいますな。わたくしには忘れることなど出来はいたしませぬ。お

いでなされてわたくしとお暮し下さるとおつしやつた希望とてもこれ亦お忘れいたしませぬ。嗟、なぜあなたさまはわたくしの側で御一生をお送り下さる事をお喜びなさらないのですか。わたくしがもしもこの不幸な僧院から出ることが出来さへ致しますものなら、わたくしはあなたさまのお約束の實現を葡萄牙などにゐてぼんやりお待ちしは致しません。あなたさまを求め、あなたさまを追ひ、あなたさまをお慕ひして、全世界中怖いものなしに歩きまはりもいたしませうに。でもそんなことが出来ようなどとは思ひも及びません。わたくしはただ悲しみのみを思はうと念じて居りますものを、もし出来さへすれば喜びをわたくしに與へるに違ひないなどとあだな希望を考へるのはやめに致します。あなたさまに手紙を差上げるやうにと兄の與へましたこの機會が思ひがけ

なくも喜びの情をいくらかわたくしに目ざまして、わたくしがそのなかに住んでゐる絶望を、しばらくのあひだ堰きとめてくれました。あなたさまはわたくしをお見棄てなさらねばならない事は篤と御存知のくせに、なぜわたくしをこのやうにお瞞しなさらうと遊ばすのです。わけをわたくしにおつしやつていたゞきます。なぜそんなにあなたさまはわたくしを不仕合にしたいと望んでおいでなのです。なぜわたくしの僧院にわたくしをそつとして置いては下さいませんでした。わたくしが何かあなたさまにお悪い事でもいたしましたか。しかしわたくしはお宥しをお願い申しませう、わたくしはあなたさまをお咎立てしてゐるのではございせん。復讐を考へるやうな氣持では居りません。わたくしは、唯、わが身の運命のむごさをせめてゐるのでございます。運命はふた

りを別れさせて、わたくしたちの惧れてゐたあらゆる危害をわたくしたちに加へたやうにわたくしには思へるのでございます。よもや運命とて、わたくしたちの心を引裂くことは成し遂げられますまい。でもそんなものよりも力強い愛が二つの心を永久に結びつけたのでございますもの。わたくしの運命に少しでもお心づかひがございますなら、折々にはお手紙を下さいますし。あなたさまのお心持や御起居のおん有様を枉げてお知らせ下さるぐらゐなことはわたくしにだつてして下さいませう。ともあれ、わたくしに會ひにおいて下さいまし。さよなら。この手紙をわたくしは手放すのがお名残惜なごりしうございます。この手紙はあなたさまのお手の中に參りますのね。その同じ幸福をわたくしも得たいものと思ひます。嗟、何といふ愚かものでせう。到底身には協はぬことはよ

く存じて居ります。さよなら。もうこの上は駄目でございます。さよなら。いつもわたくしを愛して、わたくしをもつともつと苦しませて下さいまし。

次
の
み
註二

嵐があなたさまをアルガルブへ餘儀なく御入港いたさせたと、只今あなたさまの中尉さまがわたくしにお聞かせ下さいました。海上さぞ御難儀遊ばされた事とお案じ申し上げます。心痛のあまり、わたくしは自分の心配などはもうすっかり構はなくなりまして。あなたさまはどうやらわたくしよりもあなたさまの中尉さまの方がもつとお身の上をお案じ申してゐるとお思召のやうでございますのね。それならばこそ、中尉さまの方がわたくしよりも御消息に通じてゐらつしやるではありませんか。それだとして、なぜあなたさまはお便りをわたくしには下さいませんでした。お立ち

遊ばされてからお手紙を下さる暇がなかつたのなら、ほんとうにわたくしは不仕合でございます。それともお暇はおありでも下さるおつもりがなかつたのなら、尙更の不仕合でございます。あなたさまの義理知らずとあなたさまの不人情とはほんとうにひどいものですこと。けれど、義理知らずの不人情のと申し上げてお氣にさはりでも致しますと、わたくしは本意無うございます。こんなことを申し上げてあなたさまをお虐めしたりお咎めしたりなどは致したくないものでございます。あなたさまがわたくしをお愛し下さらないと思はずにゐられぬ證據を自分で打消し、あなたさまの情無いお仕打の御申開きをお恨み申し上げる代りに、一そただ自分の熱情にどうぞ盲目滅法になつてしまひたいものだとわたくしはさう思つて居ります。お見そめ申したあのころ、あな

たさまの御様子は今わたくしに思はれるやうにこんなにお冷たく
 らつしやつたものなら、あなたさまはわたくしに苦痛をまるで
 知らせずにすませて下されましたらうものを。あの頃あなたさま
 がわたくしにお見せ下さつたやうなあゝの熱情に欺かれない人がご
 ざいませうか、それを真に受けない人がございませうか。いとし
 く思ふ方の真心をちよつとの間でも疑ふ氣になるのはどんなにか
 つらい事でございませう。わたくしよく存じて居りますが、ほん
 のちよつとした御口實であなたさまにはもう御充分なのでござい
 ます。いいえ、そんなお手數をおかけするまでもなく、あなたさ
 まを思ふわたくしの愛は大へん忠實にあなたさまの御味方をいた
 して居りますので、偏へにあなたさまを御無罪とお認めして限り
 ない喜びをわが身に味ひたさばかりに、とてもあなたさまを有罪

と決めることは出来ません。あなたさまは御まめくしさてわた
 くしをお捕へになり、あなたさまが無我夢中におなりなされてわ
 たくしの情熱を煽り立て、お優しさがわたくしを迷はせ、御誓
 言がわたくしを信じさせたのでございまして。それにしまして
 も、わたくしをまよひ込ませたのはわが身自らの戀慕のはげしさ
 でした。あんなに甘くもあり同時にあんなに幸福でもあつた事の
 始まりが、今はなぐさめ一つ身に求めるすべもなく、ただ涙と溜
 め息とはかない死との外には何も残されては居りません。あなた
 さまをお愛し申し上げてわたくしは今までに思ひも知らぬ喜びを
 味つたのは本當でございしますが、その喜びこそ今わたくしに、以
 前は少しも覺えませんでした悲しみをさせて居ります。あなたさ
 まがわたくしにお與へ下さる感動はすべて極端に走ります。もし

「もわたくしが頑強にあなたさまの御愛情をお斥けしてゐましたらうものなら、もしもあなたさまをもつとわが身にお引よせするたれにお怒と御嫉妬とお起させ申す動機をわたくしがお與へしてゐましたらうものなら、もしもわたくしの態度に少しでも手管とお氣付なされる事でもありましたものなら、一言に申せば、もしもあなたさまがまづ抱きやがてあなたさまがそれをわたくしに意識させて下された自らおのづかな御慕はしさに逆らつてわたくしが自分の理性を働かせようとでも致しましたらうものなら（尤もそんな事は何の甲斐もございませんでしたらうけれど）そんな時にはあなたさまはわたくしをきつと手ひどくお責め遊ばして、何かの御言ひ分をお見つけの上で定めしわたくしを御存分に遊ばされた事でございますたらう。それなのに、あなたさまがわたくしをお愛し

51

「下さるとおつしやらないうちに、わたくしにはあなたさまがお愛し申すお値打のある方と思はれてしまつたのでございました。あなたさまはわたくしに大きな情熱の證あかしをお與へ下さいました。わたくしは身にあまる嬉しさで、わが身もあらずあなたさまをお慕ひ申し上げました。あなたさまはわたくしのやうに盲目ではございませんでした。それだのになぜあなたさまは只今のやうな有様にわたくしをお墜入れなさいました。それほど御荷厄介なものに相違ないわたくしの身も世もない思をどうしてあなたさまはお求めなされました。あなたさまは御自身いつまでも葡萄牙にゐらつしやらないおつもりをよく御承知でした。それだのになぜ、不幸な目に逢はせようとわたくしといふものをお擇り抜きなされました。わたくしなどよりもつと美しい人で、お相手にしてあなたさ

まが事缺かさぬだけのお楽しみのお出来る方で——こちらであなた
 さまは浮いた方ばかり求めていらつしたのですもの、——御一
 緒にお暮しなされる間はほんとうにあなたさまをお愛しにもなる
 方で、あなたさまが居らつしやらない段になつては日さへ経てば
 元氣にもなれる方、だから別だんの嘘偽うそいつはりやむごいお仕打などはな
 さらずともお見棄てになれる方、そんな方をあなたさまはこの國
 できつとお見つけなされましたらうに。ひたすらに楽しむことば
 かりを考へてゐる戀人といふよりもあなたさまは、迫害に執した
 暴君さながらのお仕打です。嗟、あなたさまのものであるこの心
 をあなたさまはなぜそんなに手荒くなさりたいのでせう。お氣に
 召すやうにお努めすればするほど、あなたさまが、わたくしから
 離れてゆくのはわたくしわかりすぎる程でございます。わたくし

の愛の一切合切を持出すことや又、何か道に外れたことをわたく
 しに致しましたらうかなどと假定するやうな無駄はいたしません
 でも、あなたさまがわたくしのところからお立去りになつた理由
 よりもつと有力な理由がたとひおありでしたところで、わたくし
 はそれにさへ御對抗致しも出来ず。あなたさまの理由などは何
 れわたくしにはほんの微力なものに過ぎません。でもどんな事だ
 つてお側からわたくしを引裂くだけの力強いものはございませ
 ん筈です。ともかくあなたさまは、フランスへお歸りになる時にお
 見つけなされたあの最初のお言譯いひわけを今もお用ゐになるおつもり
 やうでございますね。船は航海いたして居りました。なぜあなた
 さまは、そのまま航海させてお置きなさいませんでした。お宅さ
 まからはお手紙が參つてゐました。たしかにあなたさまはわたく

しが家庭から受けた迫害はのこらず御存知でゐらつしやいます。御名譽が是が非でもあなたさまにわたくしを見棄てさせたのです。わたくしは何か自分の名譽などに氣をつかつたり致しましたらうか知ら。あなたさまは是非とも去つてお國の、お天子さまにお仕へしなればならなかつたのでした。お天子さまの事を世間でお噂申してゐるのがみな事實なら、お天子さまはあなたのお仕へに御用がなかつたので、ですからあなたさまが居らつしやらないでもお宥し遊ばされたのだと申して居ります。御一緒に一生を暮すことさへ出来ましたのなら、只もう幸福すぎたのでございませうものを、でも御歸國がわたくしたちを離れ離れにするといふ運命でございましたからには、わたくしが不誠實でなかつたといふ一事を思うてせめてもの慰めに致す可きでございませう。そん

な卑劣な行ひは、でもわたくしはこの世の何ものに代へても致したくないと存じて居ります。何とわたくしの心と愛情との深さを御存じのあなたさまが、よくまあわたくしを永久にお棄てになるお氣になり、さうして只新しい欲情の犠牲に供へるためにだけわたくしを思ひ出して居られるのではないだらうかなどと考へさせるやうな怖ろしい目にわたくしを逢はせるそんなお氣に、よくもおなりなされたものでございますね。

物狂はしい者になつてあなたさまをお愛ししてゐることは自分でもよく氣づいて居ります。その上、わたくしはわが心の感動のあらゆる荒荒しさをものとも致しません。わたくしはそれの呵責に身を委ねて、千の歎きの只中にあつてさへも、あなたさまをお愛し申して心に味ひ知るうれしさ無しには生きて居られません。

けれどもあらゆる物事に對する忌はしさと厭はしさとが不斷にわたくしを惱まして居ります。身内の人たちも、友だちも、この僧院も、わたしには堪へがたいものに思はれます。否應なしに見させられるすべてのものも無理やりにさせられるあらゆることもわたくしには我慢なりません。わたくしは自分の義務や行爲の一切合切をあなたさまにおかかはりある事にしてしまはないではゐられないほど、自分の情熱を一途に守りたくなつたのでございます。さうです。わたくしは自分の生涯のあらゆる瞬間をあなたさまの御爲めに費さずにはゐられません。噫、自分の心を一杯にしてゐる極度の憎と愛とを外にして何をわたくしは致しませうか。たえずわたくしの思ひを充たしてゐるこの愛に取残されてしまつてわたくしに無事な寒い生涯が暮されませうか。そんなうつつ、そんな

な感情の空滅は、とてもわたくしには不向きでございます。みんなの申しますには、わたくしは心持なり様子なり氣質なりがまるで變つたさうでございます。その事に就きましては、教母が、最初にはきびしく、後にはいくらかやさしく、わたくしに申し告げました。わたくしはお答へに何を申したか存じません。わたくし、すつかりあの方にお打明けしたやうです。行狀峻厳なお方でさへ、わたくしが身の上をお憫れみ下さり、何か心ありげに感動なされてわたくしの爲めにお案じ下さいました。どなたさまも皆、ほんとうに、わたくしの愛慕には心を打たれて居らつしやいますのに、あなたさまおひとりだけがてんで素知らぬふりで居らつしやる。下さるお手紙はみんなおつめたくその上にたゞの紋切型です。紙には半分も書いてゐらつしやらない。早く切り上げたくて仕方が

ない御様子が見え透きます。

ドナ・ブライツさまがわたくしに、幾日か部屋から出てゐてみてはどうかとすすめて下さいまして、また氣が晴れますようにと、メルトラ城門^{註三}の見える露臺へ、わたくしを、歩きにつれ出して下さいました。わたくしはブライツさまについて出ましたが、同時に無慈悲な思ひ出がわたくしに押寄せて、それからその日一日はそのために泣かせられました。ブライツさまはわたくしを部屋へつれてかへつて下さいましたが、部屋ではわたくしは寢臺にわが身を投げかけて、復そのうちにはなほるといふはかない望みを千度考へました。なぐさめのためにとして下さつた事もただわたくしの歎きを更にはげしくしただけでございました。治療法そのもののなかにわたくしは今更に事新しい悲しみの種を見つけ出した

のです。わたくしをうつとりさせる御様子であなたさまがお通りがかりになされるのを度々わたくしがお見受け申したのはこの場所からなので、わたくしの不幸な情熱の第一の徴を覺り初めたあの宿命の日に、わたくしは露臺に上つてゐたのでございました。

あなたさまはまだわたくしをお知り下さいませんではございましたが、憚りながらあなたさまはわたくしを喜ばせようとして居らつしやいました。わたくしたちみんなのなかから特にわたくしをあなたさまがお擇り抜き下さつたのをわたくしも悟つて居りました。あなたさまが馬首をおめぐらしなされるそのお手並と凛々^{りんりゃ}きとに一段と見とれて感じ入つてゐるわたくしを、あなたさまは手綱をひかへて御満足げであつたやうにお察し上げ申しました。あなたさまが難所をお乗越しなされる時わたくしは思はずひ

やりといたしました。一言に申しますと、あなたさまのなされま
す事なら何もかもわたくしは人知れずいみじく存じ上げたもので
す。わたくしはあなたさまが確にわたくしに無頓着であつしや
らないのを感じ、あなたさまの遊ばすことはみんなわたくしを眼
中に於てあつしやるものと思ひました。事の成行く果はどうで
ございましたかあなたさまはよく御承知であつしやいます。格
別お隠し立てしなければならぬ事もございませぬけれど、洗ひ
ざらひ申し上げるのは致さないがよろしいでせう。でもさなきだ
に罪に服すべきあなたさまを、わたくしにはとても出来さうもあ
りませんのに、この上いやが上に罪の重い人にしてしまひたくも
ありませんし、といつてあなたさまを是が非でも信實にしたいと
いふ一念の無駄な努力のはてで罪を自分で着るはめにもなりたく

はありません。忠實は所詮あなたさまのものにはなりません。ま
これらの手紙や詰問ぐらゐが今更效を奏するとわたしだつて頼み
をかけてゐはしません。お盡し申した愛でさへも又お振棄てなさ
れてみた上でさへも一向お心動くとも覺えなかつたあなたさまの
不人情ですものを。わたくしは自分の辛い運命は知り抜いてゐま
す。あなたさまの人で無しはつゆ疑ひの餘地もありません。お見
棄てをうけましたからには、もつともつと悪い事も身にふりかか
らずにはゐますまい。わたくしばかりをつかまへる御魅力でせう
か。他の目はあなたさまを好ましいと思はずにゐませうか。他人
の感じがわたくしの感じを言はば裏書きしてくれるやうなもので
あつて見ますれば、考へると、わたくしは立腹致してならないわ
けでございませぬし、佛蘭西中の御婦人がのこらずあなたさまを程

のよいお方と思ふのをわたくしは望みますけれども、でもあなたもあなたさまを愛しては、あなたのお氣に召してはいやです。こんな考がたわいもない願うて協はぬものとはわたくしもよく承知して居りますけれども。亦、あなたさまといふ方は大きな愛情には無資格でゐらつしやる事をも、それに何ら外からの助なしでも、つまり目新しい愛が無理にさうおさせしないであなたさまはわたくしをけろりとお忘れになれる事をも、わたしは疾くに見てとつて氣づいて居ります。わたくしをお見棄てなされた事に對して何か正當なお申開きを、わたくしも今にしていただきたくなりさうな氣がします。さうなればそれこそまつたく、わたくしは今以上に不幸になりませう、あなたさまの罪はお軽くなりも致しませうけれど。大方あなたさまは、大したお楽しみもなくそれ

でも仕度放題をなすつてフランスにおいてなされるおつもりかとお察し申します。長の船旅のおつかれやら、御體面を守る固苦しさやら、その上にわたしのはげしい情熱のお相手はやりきれないといふ御心配やら、そんなことがあなたさまを佛蘭西へお引留めしてゐるのです。どうぞわたくしを恐がつては下さいますな。わたくしなら、時たまにはお目にかかれるといふ事とわたくしたちふたり同じ國內にゐると感じるだけとて満足をいたしませう。でもわたくしでも氣安めぐらゐは持ちますので、あなたさまはわたくしのあらゆる御愛慕では駄目でもしや外の婦人の無情と冷淡とでお思ひかへしして下さるやうな氣もいたします。冷酷があなたさまをいやが上にも煽り立てる事などあるものでせうか。

何にいたせ強い愛にお身をお委せ遊ばす時もございますなら先

づ、篤とおん思ひやり下さいまし。わたくしのあり餘るこの悲しみを、とりとめもつかぬこの思案を、激情のなかのこの矛盾を、手紙にあるこのめちやくちやを、わたくしの信頼を、わたくしの絶望を、わたくしの願望を、わたくしの妬心を。おゝ、あなたさまは御不幸の途上にお身を置いてをられます。どうぞ願ひでございますから、わたくしの手本にお鑑み下さいませ。せめてはわたくしがあなたさまのおために苦しんで居りますことが、あなたさまのおためにお役立ちしますやうに。五六月ほど前にあなたさまは、わたくしを苦しめた秘密をお明しあそばして、あんまり事もなげにあつさりと、お國であなたさまが以前に貴女を愛された事があると御白状なさいました。もしもあなたさまがこちらへお歸りなさるのをお引留めするのがその方だと致しましたなら、何

ももう氣を揉む事はないのだと、わたくしに躊躇なくお告げ下さいませ。わたくしはそれでも猶、望みのかけらをよせ集めて心を引立ててゐます。それが好結果にならない場合にも、わたくしは充分に甘んじて、一そ一と思ひに希望もわが身をも捨て、しまふつもりです。どうぞわたくしにその方の御似姿とその方のお手紙を一本とお送り下さいませ。それからその方の仰言ることを残らずわたくしに書いてお見せ下さいませ。そのどこからわたくしは多分自分を認める理由を見つけ出しませう。それともまたなほこの上に自分を苦しめることになるかも知れません。わたくしは現在の状態ではもうとてもゐられませんので、たとひどんな變化にしましたとてわたくしには役に立つ筈です。わたくしにはまたあなたさまの御兄弟やら義理の御姉妹の御肖像をもいただ

かせて下さいませ。あなたさまに御関係ある御事ならみなわたくしには慕はしく存ぜられて、わたくしは何かしらあなたさまにお係りあることに身を投げ出して居ります。自分の考へなどはもう何もありません。時々、考へます事には、わたくしはあなたさまがお愛しなされてゐるお方に身を屈して奉仕することさへ出来るやうな氣もいたします。あなたさまのひどいお取扱ひとお蔑みさいやみとはわたくしをあまりひどく打ちのめして下さいましたものですから、あなたさまの御不興がおそろしさに折々は嫉妬がましい事を申して見ようかなどの氣にもなれなくなり、その上もしやわたくしがあなたさまをお責め立てしてもすればそれこそこの世の中で最も悪い事をしたやうな氣がするほどまでに、わたくしはなつてしまひました。わたくしとて屢々氣がつくのでございますが、

あなたさまがお認め下さりもしないこんな感情を、わたくし見たやうにこんなに氣違ひじみて、あなたさまにお見せするのはしてはいけないことなのでせう。士官の方がもう長いことこの手紙の書けるのを待つてゐらつしやいます。わたくしはあなたさまがいやなお氣持をなさらずにお受け下さることが出来るやうこれを認めようと決心いたして居りましたのに、それなのに、かうも我武者羅になつてしまひましたので、わたくしはもう止めなくてはなりません。噫、やめる氣にはわたくしなれません。書いてゐる間はあなたさまにお話申し上げてゐる氣がいたします。またあなたさまがもつとわたしの目の前にゐらつしやるやうな氣がいたしません。最初註四の手紙はこんなに長つたらしくも小うるさくもない筈です、あけてお読み下さつたらおわかりでせうけれど。お氣に

そむく情熱に就ては本當に申し上げてはなりません事でした。わたくしも二度とは申し上げますまい。何のお隠し立てもなくあなたさまのものにわたくしがなつてから、もう一年でございます、二三日経ちますれば、あなたさまの御愛情は大さうに温かな真心の深いものにおなりなされたものですこと。わたくしの御愛慕から逃げ出さうと五百里もあなたさまに船旅をおさせして難船の危険な目にさへお逢はせするほど、そんなにわたくしの御愛慕があなたさまをお苦しめ申さうとはゆめ思ひ及ばぬ事でございます。どのお方さまからとてこのやうなつれ無のお仕打をうけた覚えはわたくしまだございません、あなたさまは、わたくしの憤しみ、わたくしの羞らひ、わたくしの戸迷ひは御記憶下さいませうが、ただ御自分をすててもわたくしをお愛し下さることは御記憶

下さらないのです。この手紙をあなたさまへお届け下さる士官の方は、もう出立したいといつて四度もわたくしへお使ひを寄越よこされました。何といふ押の強い人でせう。きつと此方は誰か此國の氣の毒な貴婦人を見棄てようと掛つてゐるに違ひありません。さよなら。この手紙をおしまひにする苦しみはわたくしにとつては、あなたさまがわたくしに別れる、それも多分永久に別れるためになすつたものよりもずっと以上です。さよなら。わたくしはあなたさまへ何も愛の變名かへなを千も差上げようといふのではありません。またわたくしの感情ののこらずに、何の自制もなく身を委ねようともいたしません。わたくしはわが命の千倍もあなたさまを愛して居ります。わたくしは自分で氣がつくよりも千倍もあなたさまを愛して居ります。あなたさまはどんなにかわたくしに

お慕はしい、でも、またどんなにかむごたらしいお方でせう。あなたさまはわたくしには御手紙は下さらない。それももう一度わたくしはあなたさまに申し上げずにはゐられませんでした。又しても繰言を初めてみました。士官さまはもうお立ちでせう。構ふものですか。行くなら勝手になさるがいい。こんなに書くのはあなたさまのおん爲めといふよりもわたくし自身のためなのでございます。わたくしは只何か知らの慰めがほしいのです。その上、わたくしの手紙のこの長たらしさこそあなたさまをお驚かせもいたしませうし、それ故あなたさまはお読みも下さりませぬ。一たいどんな事をしてわたくしはかうも不幸になつたでせう。どんなわけであなさまはわたくしの生涯に毒をお盛りなされました。なぜわたくしはよその國に生れ合はさなかつたのでせう。さよな

ら。わたくしをお宥し下さいませ。今となつてもうお愛し下さいませとお頼み申す氣もいたしません。わたくしの運命がわたくしを墜入れたこの有様を御覽じて下さいませ。さようなら。

第三のぬ

わたくしはどのような事でございます。あなたさまはわたくしをどうさせたいと仰言るのです。わたくしが心待ちに致してゐましたすべての事と只今のわたくしとは何とひどい相違でございます事か。お通りあそばすどこからでもあなたさまはお手紙を下され、そのお手紙はといへば大へん長いものでもあり、——それはあなたさまにまたお目にかゝれるといふ希望でわたくしの愛をお嘸み下さり、また御信實におすがり申す充分の信頼がわたくしに幾分の落ち着きにもなり、さすればせめて悲しみも絶頂を知らず、堪へられもする氣持で暮らせませうものと、わたくしはそ

れを頼みに思うて居りました。もしやあなたさまがわたくしをまゐるつきりお忘れなされたものと唯の一度でも確めた曉には、わが身の治療には精一杯、百方手を盡さうとのいぢらしい心構へまで考へて置いたのでございます。あなたさまがおいで遊ばすところの遠さ、何やら執念の衝動のやうなもの、眠れないたくさんの夜な夜なとまたたくさんの心遣ひと支へ兼ねてゐる身の健康もすつかり臺なしになるといふ心配、あなたさまのお歸りのおぼつかなさ、あなたさまのお心をつめたさ、最後のお別れのお言葉、お別れに際しての不實なおかこつけ、さては尤もと思へてみたり取るに足りないと思へてみたりするさまさまの外の理由も、どれか一つ、もしわたくしにさへその氣なら安全な避難所になつてくれな

いではありません。談合するにも全く自分の心だけでございます

から、わたくしがこんなに力無いものとは思ひも及びませんでし
 たし、今あるやうな苦しみを見透して置くことも出来ませんでし
 た。嗟、わが身こそ何といふ不便ふびんなものでございませう——身の
 悲しみをあなたに頼つこともかなはぬわたくし、歎きに暮れてひ
 とりぼつちで居なければならぬこのわたくし。この思がわたく
 しを殺します、怖ろしさでわたくしは死にさうです、ふたり相偕
 にした一切の幸福であなたさまが少しも感動させられてゐらつし
 やらないかと思へば。あなたさまの無我夢中むがむちゆうが空事そらじであつたのが
 わたくしに今わかります。あなたさまの無上の喜びはわたくしと
 偕いにあることのみだと仰せられた時あなたさまはいつもわたくし
 をお欺きなされたのです。あなたさまからいたゞいた温情と情熱
 とはたゞわたくしの執念のおかげにすぎなかつたのです。掛引と

冷血とであなたさまはわたくしの愛を煽り立てようとたくらみを
 お仕組みなされたのです。わたくしの情熱をあなたさまはたゞ御
 自身の勝利としてのみ考へてゐらつしやつたのです。お心は決し
 て深くは動かされてはゐなかつたのです。本當にお淺ましくはご
 ざいせんか。わたくしの御愛慕をたゞそれぐらゐにしか得お受
 下されぬほどあなたさまはお心無し、哀れ知らずでゐらつしやい
 ましたか。これほどまでの愛情を持ちながらそれでどうしてあな
 たさまを全くの御幸福にすることが出来得なかつたのでせう。あ
 なたさまがお失ひなされたこの上なしのお喜びをわたくしが無念
 に存ずるのもたゞ只、あなたさま御いとしと思へばこそでござい
 ます。何故あなたさまはこの無限のお喜びをお受取りなされない
 のですか。ああ、それをただお氣づきなされさへしませうものな

ら、わたくしを欺き了せたといふそんなものなどより迥かに大きなお喜びをお悟りになり、さうしてその幸福がどんなに澤山なものか又愛せられるなどより烈しく愛する方がどれだけ痛烈であるかを、さぞ御経験遊ばすてございませうに。わたくしは自分が何であるか、何をしてかすか、何を願つてゐるかを知りません。わたくしは千の矛盾した感動で引裂かれて居ります。これよりも無惨な身の上が考へ得られませうか。わたくしは物狂ひになつてあなたさまをお愛し申しますゆゑ、この同じ切なさであなたさまがお悩みなさるのを念ずる氣にもなれないほど、専らあなたさまをおいたはり申し上げて居ります。あなたさまが何の心長閑さもなくなくなつておしまひになり、御生涯がわたくしのそののやうに苦勞な搔亂れたものであり、あなたさまは絶えず泣いてゐらつしや

り、もう何もかもあなたさまには厭はしくなつたといふ事をわたくしははつきり覺ると致しましたものなら、わたくしは自分で身を殺すか、それとも悲歎の餘りに自づと死ぬ事てございませう。わたくしは自分の苦しみにさへ堪へ切れないのでございませうに、この上あなたさまの分までしかもそれがわたくしの身には千倍にもなつて響いて来るそんな悲しみをどうして支へ得られませう。でもさう思ふそばから、あなたさまがわたくしの事をもう思つて下さらないがいいと願ふ氣になどはなれさうもありませんので、あからさまに申し上げますれば、フランスであなたさまにお喜びを興へまたあなたさまのお心とお浮氣とに近づく何ものを、わたくしは猛々しく嫉むものです。どうしてわたくしはこんな事を書き送りたいのだから自分でも存じません。あなたさまは只わ

たくしをお憫れみ下さるだけのことだとは承知してゐますし、しかもお憫みなどは一向冀はしくないのでございます。わたくしがあなたさまの御爲に犠牲にした萬事をかへりみますと自分の身を悪みます。自分の名譽をわたくしは失ひました。一家の怒や、破戒のものに對する國の掟のあらゆる酷^きしさや、さうしてとどのつまりあなたさまの不人情に、わたくしは我身を曝したのでございました。それなのに、わたくしの悔悟はまだまだ眞實ではないらしく、あなたさまの愛のおためならば、よろこんでありつたけの心をお盡し申してわたくしは一番大きな危険を冒しも致しませうし、またあなたさまにお捧げ申すのなら、わたくしの生涯をも名譽をも賭けてまで、悲しい喜びを味ひたいと感ずるのでございます。わたくしが最も大切に居ります何もかもみなあなたさま

のお心任せにお委ねしてはならないでせうか。これまでわたくしが致して居りましたとほりにわたくしの大切なものを用ゐてはならないのでせうか。わたくしは、ああ、あなたさまに満足して自分の心頼みに思ひ込むことも出来さうにはなし、それかと云つて自分の悲歎や自分の愛の過分に漬^{ひた}り切つてだけでは決してゐられさうにもありません。わたくしは生きのびて居ります、不貞なものとはわたくしの事です。命を失ふよりも長らへてゐたいと思うわたくしです。咨^あ、わたくしは恥に死ぬばかりです。こんな事を申してわたくしの絶望はただ手紙の上面にあるだけでせうか。もしもわたくしがあなたさまをお慕ひ申すものなら千度も申し上げましたとほり、わたくしはとうの昔に死んでゐる筈ではありませんでしたか。わたくしはあなたさまをお欺き申しました。ですか

らあなたさまは當然わたくしをお責め下さいませ。ああ、あなたさまはわたくしをなぜお責め下さいませ。わたくしはあなたさまがお立去りなされるのを見て、あなたさまがお立返りなされるのを見る事は決して希望できませぬのに、こんな有様に到つてさへまだわたくしは長らへて居ります。わたくしはあなたさまをおたぶらかし申したのです。お許しを乞ひます。でもそれをわたくしにはお與へ下さいませ。手ひどくわたくしを御取扱ひ下さいまし——あなたさまに對するわたしの愛があまり弱すぎると仰言つ下さい。御機嫌をとりにくくなつて下さい。あなたさまのおために盡す愛で死ぬがいいとわたくしに申しつけて下さい。願はくばお力を得させて、どうぞ、私に女性の弱さを征服させ、こんなぐらつく氣持を絶望になり代らせて打ち切らせて下さいませ。せ

めては、悲痛な最後が時折はあなたさまにわたくしを思はせ、わたくしの思ひ出があなたさまに慕はしいものになり、さうして多分はこんな非業の死であなたさまは眞にお心を打たれて下さりもいたしませう。あなたさまがわたくしをお導きになすつた今の有様にくらべれば死の方が優つてゐるのではございませんか。さようなら、あなたさまにお目にかからねばよかつたものと、わたくしはどんなにか後悔しますことか。ああ、こんな一句が、どれほど嘘であるかよく自分で氣づいてゐます。これを書きながら今も思ふのには、あなたさまに、ついぞお目もじしなかつたよりはあなたさまをお愛し申して不幸な方がずつと増してございます。喜んで、かこちごともせず、わたくしはわが身の悪い運命を納得いたしませう、もつと幸福にしてくださるのがあなたさまの御思

召では居らつしやらないのですから。さよなら。わたくしが悲歎に死にもいたしますなら、わたくしのために少しはお情けあるお悔みのお心をお約束下さいまし。それともせめては、わたくしの戀のすさまじさにひかれてもう何もかも厭はしく忌はしくなりさうだとお約束下さいまし。この慰めでわたくしは満足をいたすことにして、それにもし永久にお別れいたさねばならないものでしたなら、あなたさまを外のお方にはおまかせしない事を願はせて下さいませ。御自身をもつと快よいものになさるためにわたくしの絶望を御利用なされて、この世で最も力強い情熱を御自分が吹き込んだやうなお顔をなさるやうではあなたさまも餘りに残酷ではございますまいか。さよなら。わたくしの手紙は長すぎますし、わたくしは充分にあなたさまをお思ひやりいたしませんでした。

お宥し下されて、どうぞ、御慕ひ申し上げませぬうちは、御存じのごとくかほどもなかつたみぢめな氣違ひ女に御不憫をおかけ下さることを、御無理にもお願い申し上げます。さようなら。わたくしの只今の堪へがたい身の上をあまりくどくどと申し上げすぎたやうには存じますもの、お興へ下さる絶望に對しては眞心の底から御禮を申し述べお近づきにならぬ昔に暮して居りました心静けさをわたくしは悪みます。

さよなら。お慕はしきは刻々に切なくなりませぬ。お、お話し申し上げたさのつもる事ども山々でございませぬのに。

第四の巻

あなたさまにこれが知つていただきたさに御手紙を書かうとするにつけても、思へば、この私の胸中の思ひに對しては出來得る限りで最大の不當事をしてゐる譯であります。あなたさまの感情の激しさに訴へてわたくしのもものが正當に御判斷願へようものなら、わたくしもどんなにか仕合でございませうに。けれどもあなたさまのものとわたくしの感情とを比較など致してなるものですか——お人柄にもあるまじきお見棄てによつて、わたくしを絶望のなかに投げ込み現にあなたさまがわたくしにしていらつしやるやうにわたくしをお苛めなさるものではないといふ事を、わたくし

しが感じてゐるのに比べては本當にずつと力弱く、あなたさまに申述へずには居られないのでございますが。あなたさまがわたくしを捨ようと御決心なすつたのをわたくしが覺りました折からはつきりと見透せた禍害を訴へさせて下さるぐらゐは何も當然です。わたくしはあなたさまが定めし世の常の場合にもまさる眞心で私をお取扱ひ下さるものとばかり考へて自分を欺して居りましたが、それとても私の愛の過分がどんな疑を乗り越えさせて、あなたさまにも世間並のものより以上の、誠實を見せていただけやうな氣になつてゐたからでございました。それだのに私を欺かうとするあなたさまの御思召しは、わたくしがあなたさまにして差上げた一切の事に對して、あなたさまもわたくしに盡して下さつていい筈の義理を押しつけたのです。ただわたくしがお愛し申

すが爲めにあなたさまもお愛し下さると申すのではわたくしはただ幸福が足りません。でも、わたくしはお志からばかり愛をお受けしたく存じてゐますからです。それだのに思ひも及ばぬ事には、わたくしはこの六ヶ月と申するものは只の一本の御手紙さへ戴けませんでした。わたくしはあなたさまの愛に身をお任せした自分の盲目さに、わたくしの不幸の一切を嫁して居ります。わたくしの喜びの終りはわたくしの愛の終りに先立つて來ることを、わたくしは見透して置くべきでございました。あなたさまが御一生涯葡萄牙にお留りなされ、お國をもお行末をもお捨てなされてわたくしの事ばかりをお考へ下さるだらうなどと、私が何だとしてそんな期待を致したものでしたか。わたくしの悲しみを軽くしてくれるものは何一つございません。私を樂しませてくれた事々の思ひ出

は絶望でわたくしを一杯にします。何と！さらばすべての私の望みは頼甲斐ないものとなるでせうか。さうしてわたくしは二度と再びわたくしの部屋で、以前お示し下さつた熱烈な激情をお持ちになるあなたさまを見ることは出來ないでせうか。しかし、嗟、わたくしは自分を欺いてゐます。さうしてわたくしの心と頭とを一杯にしてゐたあらゆるさまさまの感情もあなたさまにとつては只ちよつとした歡びによつて誘致され、さうして起るとすぐに終つたのをわたくしは知り抜いてゐます。ですからわたくしの喜びの怖ろしい程の過分を和げ、又わたくしが今受けてゐる一切の苦しみをわたくしに豫告するやうにと、理性の助をわたくしは無上の幸福の只中で求めて置く可きでありました。それだのにわたくしは全くあなたさまに身を委ね切つて、わたくしの喜びには毒を

盛りさうしてあなたさまの烈しい愛の御誓言を精一杯にお受けする自分を阻むべき筈の何事も考へる有様には居りませんでした。御一緒に居りますのが嬉しすぎたあまり、いつかはあなたさまが遠くへ離れておしまひになるのを思ひ及びもしませんでした。とは申すものの忘れもいたしません、わたくしは時々あなたさまが、わたくしを不幸になさりさうだといふ事をあなたさまに訴へましたのに、でもその懸念は間もなく消されてしまひ、それらの懸念をさへあなたさまの前には犠牲にして、あなたさまの魔力はあの真心のない御抗辯に身を委せてうれしいと思つたのでした。わたくしが今悩んでゐる一切の禍害に對する治療の道をわたくしはよく會得して居ります。つまりあなたさまをお愛し申しさへ致さなければ禍害は立ちどころにわたくしの身から去るでせう。け

れども、嗟、何といふ治療法でせう。わたくしはあなたさまをお忘れ申すくらゐならばもつともつと苦しんだ方が増しです。そんな事は、ああ、わたくし次第でございませうか。只の一刻とてもあなたさまをお慕ひ申すのをやめようなどと望んだ事で後悔するのはいやです。あなたさまはこのわたくしよりも尙更お氣の毒です。でもわたくしの一切の苦勞はあなたさまが佛蘭西の情人から受ける冷やかな快樂よりも優ましです。わたくしはあなたさまの無關心を羨ましいとも思はず、あなたさまがわたくしにはお氣の毒に見えるのです。あなたさまが全くわたくしをお忘れなさるのをもわたくしは物ともいたしません。わたくしといふ者がなければあなたさまもただ不完全な歡びをしかお慰み出來ない有様にお置き申すのだと思おもひな做してゐます。さうして心閑なきわたくしこそはあ

なたさまよりも幸福なのです。この程わたくしは僧院の衛士にさ
 れました。わたくしに話しかける人は皆わたくしを氣違ひかと思
 ひます。わたくしはその人たちに自分が何を答へるか知りません。
 このわたくしに何か勤まるものと考へたとすれば宗門の人たちも
 まるでわたくし同然氣違ひに相違ありません。おゝ、マノオイエ
 ルとフランシスコ註五との幸福がわたくしにはどんなにか羨し
 いでせう。あの人たちのやうに、わたくしはなぜいつもあなたさま
 の御傍にゐられないのでせう。わたくしはあの人たちにも優つて、
 本當にきつと、まめくしくあなたさまにお仕へするでせうのに。
 あなたさまにお目にかかることがこの世でかけてゐる願の一切で
 ございます。せめてはわたくしを御記憶くださいませ。御記憶に
 わたくしが残ることがわたくしを満足させます。それなのにこの

事すらも確めさせては頂けないのでございます。日毎にお目にか
 かつて居りましたところには、御記憶を願ふくらゐなところであ
 り、わたくしの念願は限られてはゐなかつたものでしたのに、でもあなた
 さまは御望みなさる何事にも服従しなければいけないとわたく
 しをお教へなされました。その上にわたくしはあなたさまを御崇
 拜申すのを悔みはいたしません。あなたさまがわたくしをお瞞し
 なされたのをうれしいと存じ上げて、あなたさまの御不在がたと
 ひどんなにむごいものでも、またそれが永久のものであらうとも、
 決してわたくしの愛の激しさを減じさせはいたしません。わたく
 しはこれを世の人みなに知られたいのでございます。わたくしは
 それを包みかくしはいたしません。あらゆる種類の世のならはし
 をも物ともせずわたくしがした事どもはみなあなたさまの御爲

であつたのをわたくしは誇と致します。お慕ひそめ申したからには命のあるかぎりもの狂はしいまでにあなたさまを偏にお愛し申すのがわたくしの名譽でもあり宗教でもあります。是が非でもお手紙をお書かせしたさにこんなことを書き立てるのではございません。おゝお努め遊ばしては下さいますな。眞實お心から出たものばかりがただ願はしいので、あなたさまの手心のある愛の陳述は何によらず御斷り申し上げます。わたくしは只あなたさまをお宥し申すのがうれしいので、してみればあなたさまは定めしわたくしに手紙を書く御面倒もなくてお喜びでせうし、わたくしとてもすべての御落度をお宥し申し上げたいのがやまやまです。今朝ほど三時間の間、佛蘭西の士官の方が思ひやり深くもあなたさまのお噂をわたくしにして下さいましたが、平和が佛蘭西に成立つ

た^{五六}と伺ひました。もしその通りでございますなら、あなたさまはわたくしに逢ひにいらつしやつてわたくしを佛蘭西にお伴ひ下さるわけには参りませんか。尤もわたくしにはそんな値打はございません。御氣隨になすつて下さいまし。お取扱ひの方法次第で變るやうなわたくしの愛では無くなつてゐるのですから。お立去りのこの方、ただの一刻としてもわたくしは達者では居りません。さうしてわたくしの唯一つの歡びは日に千度お名を繰返す事なのでございます。あなたさまがわたくしをお突落し下された悲しい只今の有様を知つて下さる宗門のお方のうちには、折々はあなたさまのお噂をして下さる方もございます。出来るだけわたくしは、あなたさまがあんなに度々わたくしによく逢ひにお出で下さつたこの部屋から、滅多には出ないやうにして、わたくし

はいつも身にとつては命よりも千倍も慕はしい御似姿に目をやります。それはわたしに幾分の喜びを、けれどもまたと再びお目にかからぬと思へば多くの悲しみを與へます。

二度とはお目にかかれないとは、一體どうしたわけなのでございますか。では永久にあなたさまはわたくしをお見棄てなされましたか。わたくしは絶望して居ります。あなたさまの不便なマリアンナはもうこれまでです。あなたさまの彼の女はこれを書き終るにつけても絶えなんばかりです。さようなら。さようなら。わたくしをお憐み下さい。

最後の

お手紙を認めるのもこれが最後でございます。あなたさまはもうわたくしをお愛しになつては居らつしやらないのだから、わたくしも早お愛し申してはならないと到頭思ひ込ませられたといふ事を、この手紙の文句や口調に現はれた變化でお悟り願ひ上げませう。あなたさまからいただいて今も所持してゐるものはみんな最後の幸便に托してお返送いたします。わたくしがあなたさまに書送るだらうなどと御氣づかひは下さいますな、小包にお名前をさへもわたくしは認めますまい。すべてこれらの細々をドナ・ブライツさまに委ねいたしました。今まではまるで違つた事ばか

りを頼んで参りましたあの方でしたのに。あの方の御好意にお縋りすればわたくしの致すよりは疑ひも尠うございませう。あなたさまから賜はつた御畫像と御腕輪とがしかとお手元にとどいたとわたくしは得心まゐりますやうに、ブライツさまは一切手拔かりなく御配慮下さる筈でございます。とは申せ、あなたさまの愛のおしるし、かつてはあれほど身にとつてお懐しかつた品々を、或る日は且つ焚き且つ引裂くことも出来さうに思へたといふ事もどろぞお知り置き願ひませう。それだのにわたくしが思ひ切つてかうも極端に出ようとはよもお思ひ及びはなかつたのでございませう程、わたくしはあなたさまに自分の弱身を曝してしまひました。とは申せ、おん品々を手放して経験いたしました苦痛のすべを快く存じ、せめては何分の御當惑をお與へしたいのでござい

ます。白状をいたしますが、あなたさまにも御恥辱わたしにも同様なことには、あなたさまにお明しするのも面映ゆいばかり、あんな些細なものに愛着してゐる自分を今更知るにつけても、も早あなたさまを心には懸けないと思ひ定めてゐましたものが、さてとりどりの品を手離すことをしようとしては、又もあらゆる理性の力を必要とすることを感じたのであります。とは申せ、わたくしのやうな正しい理由が具はつて居さへしますれば、人は常にその求むる目的を贏かちるものでございます。わたくしはドナ・ブライツさまの手に品々を渡しました。この決心がどんな涙をわたくしに流させました事かあなたさまは御承知もなく又わたくしは誓つてお洩しは致すまじき千のそれぞれの感動や疑惑の後、もうこれらの玩具のことはわたくしに話もせず、又その品々をわたくしが今

一度見たいとせがんだにしてももうわたくしのところへは持ちかへらず、つまりはわたくしに感付かせずに品々をあなたさまへお届けいたすやうブライツさまにお願いいたしました。

自分の愛の過分をやつと自分で氣がついたのは、自分を癒さうとしてあらゆる努力を盡してみようになつての果であります。この努力にしたところが、こんなに澤山の困難と激烈とを豫め覺悟して置かなければならなかつたと知つたなら、とてもやつてみる氣になれなかつたらうと思ひます。永久にあなたさまを離れるにくらべれば義理知らずのあなたさまではあります、まだしもあなたさまをお愛し申し續ける方が忍びやすい不本意ですのにと思へるのでございます。私はあなたさまよりも寧ろわが身の情熱の方がいとしいと思ひ知りました。無禮なお振舞があなたさまを

わたしにとつて悪む可きものとした今日でさへも、この情熱と闘ふためにわたくしは一方ならぬ努力を致しましてでございます。われら女性には自づからなる矜があるものを、あなたさまにお抗ひ申す時の私にはそれさへ役に立ちませんでした。嗟、あなたさまの御嘲笑をわたくしは甘んじました。もし矜さへあれば、あなたさまの御嫌悪にも或はあなたさまが外の婦人にお抱きなされたらしい御愛着でわたしに起させた限りの嫉妬にも、わたくしはもちこたへることが出来ましたらうものを。少くもわたくしは情熱の幾分かは當然おさへなければならぬ筈でございます。けれどもあなたさまの御冷淡はわたくしにとつて我慢ならぬものでございます。最後のお手紙の笑ふに堪へた慰懃さとあなたさまの無禮な友情の御辯解とが、わたくしの差上げた手紙は残らず御入手法

された事も、それがあなたさまの御胸に何の御感動をも起さなかつた事も、そのくせ讀まれることだけは讀まれた事をも知ることが出来ました。わたくしは今だに愚か千萬にも、せめては手紙が御手許に行かなかつたかそれともお手に渡らなかつたかであつたならばと思つて見ることにすら出来ないのが恨事です。わたくしはあなたさまの卒直を唾棄します。あなたさまの正銘の御本心を明して下さいと誰が願申しました。なぜわたくしへの愛をも少しはお遣し置き下さいませんでした。つい御手紙さへ下さらねばよかつたのです。わたくしは何も合點させてほしいとは申しません。あなたさまとしてはわたくしを欺くのは苦もなく出来ますし、そのあなたさまをわたくしはまた御辯護申す事も出来なくなつた今、これだけでもうわたくしの不幸は澤山です。あなたさまはわたくし

しのすべての愛には値するに足らずと信じ、又あなたさまの卑劣な御性格はのこらず理解いたした事を御承知下さいませ。それに致しましても、若しかずくのわたくしがあなたさまにお盡し申し上げた事どもに値打でもあつて、わたくしがお頼み申すお恵みに僅の御考慮でも下さいますなら、どうぞもう御手紙は下さいませ。御願ひでございます。さうしてあなたさまをすっかりお忘れ申すことに御力添へ下さいませ。この手紙を御覽下されていくらか御心痛をおん催しなされたほんの一言のお洩してもあつたらひよつとしてあなたさまをお信じ申し上げさうです。ひよつとして又その御承認と御同意とはわたくしを當惑させ憤怒させもしませう。そんなことどもの末にはわたくしの愛を今更に炎上させも致しませう。さらばもうわたくしの生涯には少しもお構ひは下

さいますな。さもなければあなたさまはわたくしの計畫をきつと残らず打毀すことになりませう、これにお立入りなさらうものならば。わたくしがこの手紙の結果を知らうとは存じませぬし、ですからわたくしが自分のために心がけてゐる平靜を掻き擾さないやうにお願い申し上げます。わたくしを不幸になさらうとしてあなたさまがなすつた御決心がたとひ何でございましたに致せ、あなたさまが今までに私にお與へなされた加害でもう御存分でせうかと存じ上げます。このぐらついた心持からわたくしを引放して下さいますな。時が経てば、何れこれを心の平和に似た何ものかにつなぎつけることも出来ませう。わたくしはあなたさまをお悪みしないとお約束いたします。そんなことを敢てしようにも、わたくしは荒々しい感情などといふものをもう頼み難く思つてゐま

す。皆からわたくしは今にきつとこの國であなたより真心のある容貌の美しい戀人を見つけられるでせうと説き聞かせられます。しかし、**咨**、誰がわたくしに戀を感じさせ得るでせうか。よその方への情熱がわたしのかずくの思ひを充たせませうか。わたくしの情熱があなたを支配する力がないかありましたか。今まではとても持てるとも思へなかつた感情を湧かせてくれたものに對して、やさしい心はそれを決して忘れ得ないといふ事をわたくしは経験したてはありますか。こんな心のあらゆる感情はみなそれ自らの爲めにつくつた偶像へ結びつけられてゐる事を——その最初の印象やその最初の傷手が癒えもしなければ跡方なくなり得もしない事を——外からの助を得て心を充たせようと骨折るやうな情熱などに、二度と得られない感動を求めるのは無駄だとい

ふ事を——心が求めてゐる歡喜、しかも得らるべくもない歡喜はただ、悲しみの思ひ出ほど慕はしいものは何もないことを自ら悟るに役立つだけだといふ事を、わたくしは知り得たではございませんか。永久に絶つことも出来ない愛着の片破れと苦しさと片思ひするはげしい戀にもとづくあらゆる禍悪を、あなたさまはなぜわたくしに感じさせたのですか。思ひつめた盲目の上に運命の無慈悲までが力を借して、いつもきまつて、また別の人を愛する事の出来る人々にだけ恩寵を垂れて、わたくしたちの運命を決定するのは何とした事でせうか。わたくしはたとひ新らしく言ひ交して少しでも氣を紛さうと望み得ると致しましたが、その上で眞心のある人を見出し得たに致しましたが、悲しい自分をかうも深く思ひ知つたからには、たとひそれがこの世で最も悪い人であつた

にしましてもその人をすら、あなたさまがわたくしをお墜入れなすつたこの境遇に逐ひ込むに並々ならぬ躊躇をいたすでせう。それにしてしましてもわたくしは強ひられてあなたさまをお宥ししなければならぬわけでは別段ありませんが、さればとてわたくしが臆げに思ひ及んである變事で、あまりに残酷な復讐をしてかす氣にもなり兼ねます。しようとするまいとわたくしの一存でありますのに。今といふ今、わたくしはあなたさまの爲めに辯解を捜し求めて、一たいに信仰的な人といふものはいとしげに無いものだといふことがよく判りました。とは申しながら、理性が導くままに選擇をいたしました場合、人は世俗的な女人たちよりも信仰的な人をこそ愛着す可きであります。信仰的な人こそ何の妨害もなくその情熱を一途に守ります。世俗的な人々を楽しませたり心せわ

しないものにしてたりする千の事物には信仰的な人たちは心牽かれ
ません。愛する者が千の些細事に心を牽かされてゐるのを見るの
は甚だ愉快とは申し難いし、饗宴や衣服や遊山のことばかりを愛
人たちに語らせておくためには我慢がいられます（絶望すると申す
ほどではないにしても）。愛人たちが、注目と慰勸と萬人に對
する會話とに結びつけられてゐるのですから、誰しも新らしい嫉
妬に絶え間もなく曝されるわけです。そんな折にふれて愛人たち
が何等の快樂をも見出してゐないとは誰が信じ得られませう。そ
れといつて彼女たちが自分の本心からでもなく嫌でたまらないと
思ひながらいつも自分の良人に辛抱してゐるとは誰が思ひ込めま
せう。すべてこの事に就てありの儘の報告を打明けさせようとも
せず、聞くだけの事は何の不安もなしに信じて、あらゆる世人

の努めに妻が繋がれてゐるのを見て愛する良人が一向無頓著に聞
き流す時、妻は不安に思はずにゐませうか。うまい道理を捜し出
して、あなたさまがわたくしを愛すべきであると證據立てようと
わたくしは努めはしません。こんな理屈を申すのはまこと拙せつな仕
方でございます。もつと優れた方法を用ゐて、甲斐もなかつたの
でしたに。これ以上に出ようと試みようにも、わたくしは自分の
運命を知りすぎて居ります。生涯わたくしは不幸でゐませう。わた
くしは日々あなたさまにお目にかかつてゐた頃でさへさうでは
御座いませندしたか。あなたさまのお心がはりを案じては死ぬ
思ひでした。今か今かとお目もじを念じましたのに、それも協ひ
ませんでした。僧院へ入つてお越しなされて冒された御危険は、わ
たくしを苦しめました。御出陣あそばされた時わたくしは死ぬば

かりでした。わたくしはもつと美しく生れてあなたさまにお恥しくないものになれなかつたのを無念に思ひました。わたくしはいつも軽い身分をかこつのを常と致しました。わたくしに對してあなたさまがお持ち遊ばされてみらつしやるかと思へた御愛着を、何か御身のお妨げになりはしないかと幾度かお案じ申しました。わたくしの愛は足りないと思ひました。わたくしは自分の良心があなたさまを悪むのを厭ひました。つまりはその時と今と同然の歎かほしい身の上でございました。葡萄牙をお立ちになつてからも御愛情のおしるしを少しなりともお示し下さつたなら、わたくしはここを離れるために手を盡したでせう。姿を變へて出かけてあなたさまをお尋ねいたしましたでせう。嗟、わたくしが佛蘭西へまかり越したあとでもあなたさまがわたくしを見向きも下さ

らなかつたなら、この身はどうなつてみましたらうか。——あなたさまに寄する戀をすてただ今となつてはかうも懐しい、わたくしの身内には、定めしひどい狼狽、ひどい失態、ひどい不面目の果がもち上つてゐましたでせう。只今のわたくしにも尙増してもつと惨めなものにさへなりましたらうと、わたくしにははつきりと判ります。いかゞです。ともあれわたくしは生涯にたつた一度あなたさまに篤とお聞きを願つてゐるのです。あなたさまはわたくしが折れて出た事を嘸やお喜びでせう、御満足に思召すでせう。そんな事は伺ひ度くもございません。二度とわたくしにお手紙は賜らぬようにとは、既に御願ひ申しました。今また重ねて申します。あなたさまはわたくしを御扱ひなされたお仕打に就て一度だつて御反省遊ばされましたか。あなたさまはこの世の何人よ

りもこのわたくしに責められていいといふ事を只の一度だつてお
思ひなされましたか。わたくしは氣違ひ女がしさうなほどあなた
さまをお愛し申しました。いかにわたくしはあなたさま以外のも
のを軽んじた事でせう。

その上あなたさまはお名譽ある方らしくもあらぬお仕打をなさ
いました。さうしてあなたさまは生れつきわたくしとは性が合は
なかつたのに相違ありません。でもあなたさまは夢中になつてわ
たくしをお愛しなされては下さらなかつたでせう。わたくしとし
てはうつかり有り觸た取柄に氣が迷うたのでした。わたくしを喜
ばせようとあなたさまは一たいどんな事をなすつて下さいまし
たか。わたくしにあなたさまは一たい何を犠牲にして下さいまし
たか。あなたさまはいつも千の快樂を求めたのではありませんか。

あなたさまは勝負事や遊獵をおやめなされた時がございましたか。
御出軍の機にはいつも眞先駆けのくせにお歸りはいつも一番の殿
りではございませんでしたか。わたくしの爲めに御身をおいとひ
下さるようにお願ひ申したのに、あなたさまは我武者羅に御身を
危険にお曝しなされました。あなたさまは人々から尊敬されてお
いでなされた國だのに、葡萄牙に御永住の道をお求めなされませ
んでした。御兄弟様からの只の一本の御手紙が一刻の御躊躇さへ
なくあなたさまを御出立いたさせました。御船路のあひだあなた
さまが上々の御機嫌であらせられたのをわたくしが存ぜずには居
りますものか。命がけの憎しみであなたさまを惡むのが當然だと
いふことをお打明けせずにはおられません。嗟、こんな不幸を身
に降りかからせたのもみんな自分のせゐであります。外の方なら

ば自分を愛させるためにたくらみを用ゐるところですのに、最初からあまりにも多くの無垢な氣持で無限の愛にお甘かししてしまつたのでした。世上の婦人は巧みに燃え上らせる手だてをいろいろ求めませう、といふのは愛はたゞそれだけでは愛を産ませ得ないからでございます。あなたさまはわたくしにあなたさまを愛させようとお望みなされました。この下心をお描きなされてからと申すものは、それを成し果さうとてなさない事は何一つございませんでした。わたくしを愛することの必要であつた場合には、あなたさまはわたくしを愛しようとお決心遊ばしましたらうが、御目論見には別だんの用もないので、情熱抜きで御成功出来ると御存知であらつしやいました。何といふ裏切りでせう、あなたさまは應報なしにわたくしをお欺きなすることが出来るとお思ひで

したか。もしやも一度、御縁があつてこの國にお越してしたなら、お體はわが一門の仇討に委ねさせるつもりでございます。あなたさまを崇拜してあまりにも長い間ふしだらで、その空怖しさに悔恨の思ひがわたくしを切なく苛み、あなたのためにわたくしの犯した罪故にわたくしは轉羞恥に堪へません。その罪の太々しさを悟らせなかつた愛を、噫、わたくしはもう失ひました。わがものなるこの心はいつ搔搔られることが歇むでせうか。いつたいわたくしはむごたらしいこれらの羈きづなから脱し得られませうか。一切の事はございまして、わたくしはお身悪しかれとは祈りませぬ。あなたさまの御多幸であらせられる事に異存いたさぬやう決心をいたしました。けれどもあなたさまにもし眞實の心がおありでしたならば、どうして幸福になどなれませうものか。わた

くしは多分いつかはもつと心鎮まりも致しませうが、それをあなたさまにお知らせしようために、もう一つお手紙を差上げるでございませう。も早あなたさまの義理知らずも生き生きと心にこたへなくなり、その義理知らずをお責めすることも出来、その上またあなたさまの御欺を平然と語ることも出来、わたくしの喜びと悲しみとのすべては忘却いたし、さうしてわたくしが望む時にもあなたさまを思ひ出すことが出来ますことをあなたさまにお告げするやうになつてみても、それがわたくしに喜ばしからう筈も無いではございせんか。あなたさまはわたくしに對して非常に有利な立場にゐらつしやる事も、理性を覆へした愛をわたくしにお吹き込みなされた事をも、わたくしはお認め致します。けれども同時に、あなたさまはこの事で何の御名譽をも得られたわけ

もございませう。わたくしは若うございました。わたくしは信じ易うございました。註七 幼少のころからこの僧院に閉ぢこめられて居りました。わたくしは心をひかれない人ばかりを見て過しました。あなたさまが常々わたくしに下されましたおほめの言葉はつひぞ聞いた事もございせんでした。あなたさまがわたくしからお見出し下され、わたくしにお氣づかせ下された最初の方であつたその愛嬌と美しさとは、あなたさまに負ふものであるとわたくしは存じて居りました。わたくしはあなたさまの御評判のいのを聞きました。誰も彼もあなたさまを最眞にして話してゐました。わたくしのなかに愛を目ざますのに必要なことをあなたさまは残らず遊ばしました。でもわたくしはこの妖異あつかの力からやつと本心にもどつて参りました。それにつけてはあなたさま御自身

がひどく御援助下さいました。それがまたわたくしには大層必要
 ございました事をお打明け申します。わたくしはお手紙はお返
 しいたしますが、最後に下さった二通のものだけはわざと手元
 とゞめ置きます。もとの心弱さに再び墜入らざらんやう、以前の
 ものにも増して繰返し繰返して拜誦いたしませう。ああ、何とい
 ふ高價をわたくしはそれのために支拂ひました事か。あなたさま
 がわたくしにいつも變らず愛させて下さいましたならば、どんな
 にか幸福でございましたらうものを。わたくしの難詰とあなたの
 不誠實とにわたくしは今だに少々氣をとられすぎるとは充分心得
 て居りますが、そのうちにはもつと平安な状態になれることを自
 らに約束し、それに到達するかさもない時にはわが身に對して自
 暴自棄の處置を採るものと御記憶下さい。それとても深き御當惑

も無しにお聞き及びなされることとせう。けれどもわたくしはも
 う何の願ひもあなたさまには致しません。かくも屢々同じ事ど
 もを繰返す愚かものでございます。あなたさまとお別れいたさね
 ばなりません。さうしてもうあなたさまを考へてはなりません。
 二度とお手紙を差上げまいかと考へもいたしません。わたくしが
 たします本當の總勘定のお知らせをあなたさまにいたさねばな
 らない義務がございますかしら。

補註

必要な事項は残りなく解説中に記入し置きたるも英譯本に従つて次の五項を念のため改めて再び註として記入し置く。

註一 この種の恍惚的失神状態は當時の修道院などでは屢々起るところの事件であつた。

註二 カルデイロ以外の諸本はみな誤つてこれを第一便としてゐる。これを第二便と決定したのは専らカルデイロの研究の賜である。

註三 ベヂヤの城間であるが四十五キロメートルを距ててメルトラに面してゐるがためにメルトラ門と名づけられたもので、ベヂヤもメルトラもアレムテジヨ一縣に在る。

註四 カルデイロ本にも佛譯本にも次回のと

あるがそれでは意味をなさぬといふのでプレスレーヂ氏の創見によつてかく適切に改められてゐるものである。

註五 マノオイエルもフランシスも、ともにシヤミリイ大佐の従者であらうとの事である。

註六 一六六年五月に締結された王位繼承戦の結局による平和を指すものである。

註七 マリアンナのシヤミリイを最初に見たのは彼女が二十五歳の折であり、十五歳で信仰告白をしてゐるが彼女の尼僧院に入れられたのは十二歳或はその妹同様それ以前の幼時であつたらしい。

文るがとるほ

製複許不

昭和九年四月二十日印刷
昭和九年四月二十五日發賣

定價一圓八十錢

著作者 佐藤春夫

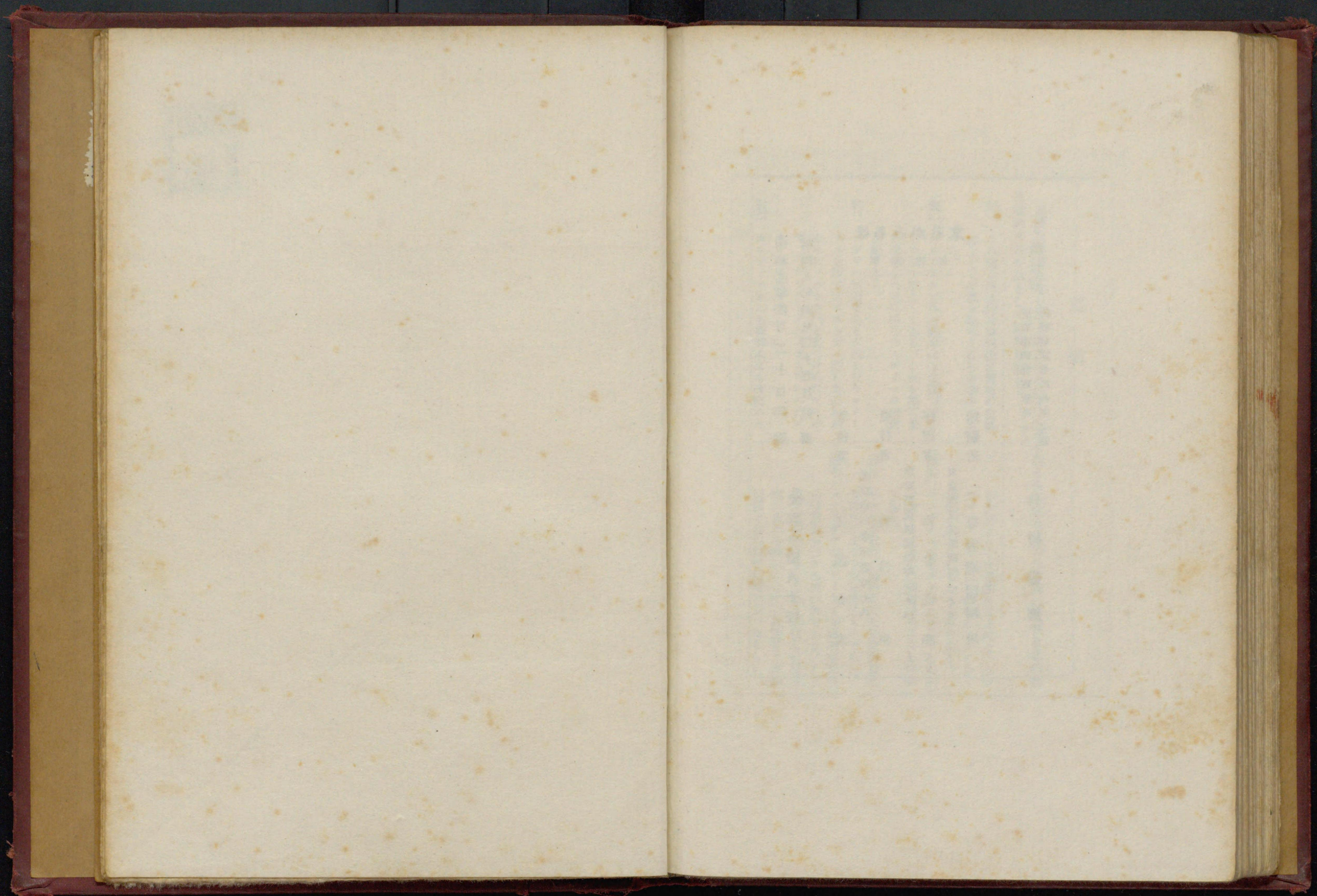
發行者 東京市四谷區坂町七八 竹村 坦

印刷者 東京市芝區濱松町一ノ三 松井巳壽

印刷所 東京市芝區松濱町一ノ三 松壽堂印刷所

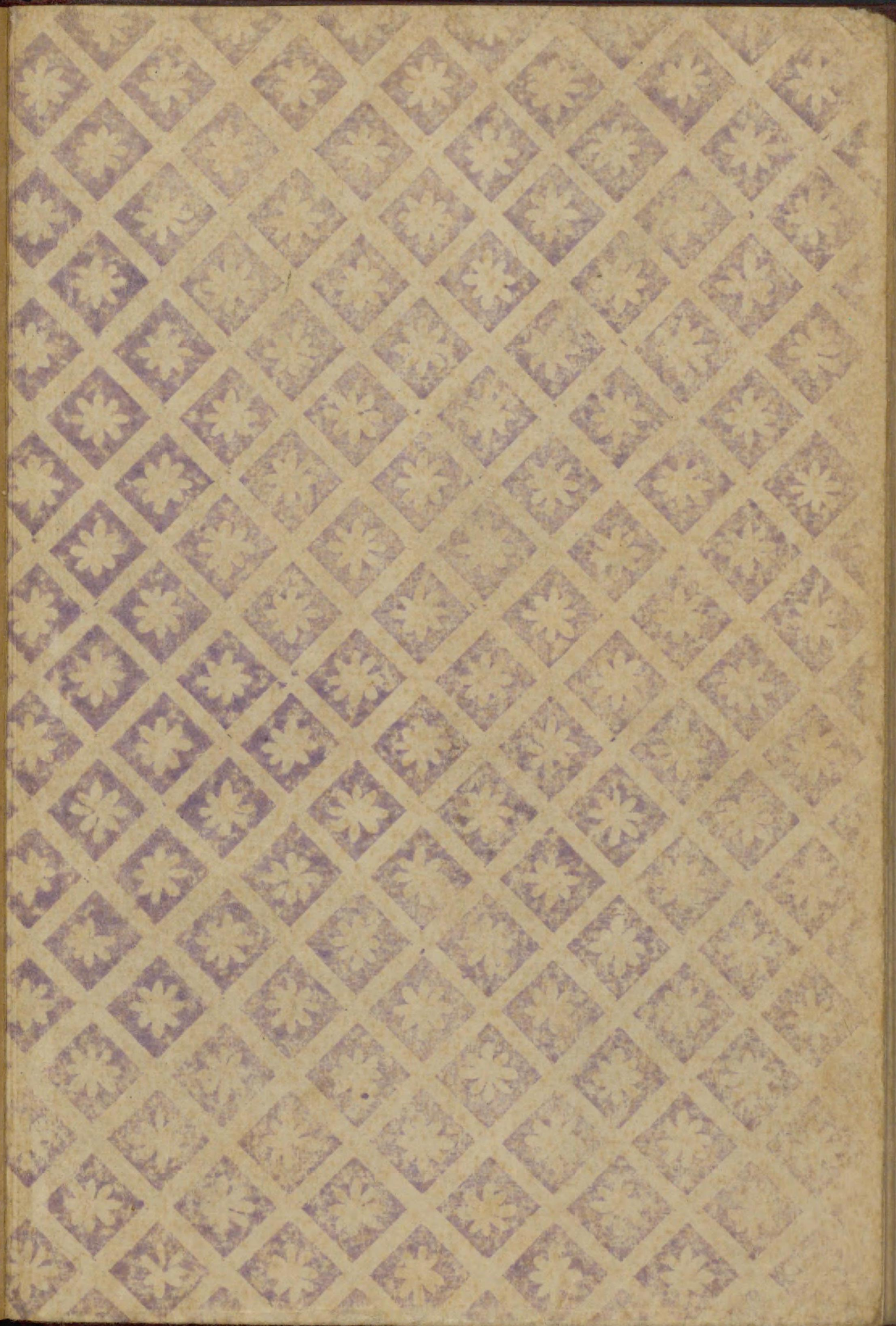
發行所 東京市四谷區坂町七八
振替東京七八八五二番

竹村書房



655
62

Handwritten text on a small white label, possibly a page number or title, located in the top left corner of the left page.



655
62

